

第1部 事業計画

「海外からの視察受け入れ力アップ計画」 策定事業

2011年3月

請負契約の受託団体の法人名	財団法人 水島地域環境再生財団
受託団体の代表者氏名	理事長 森瀧健一郎

目 次

はじめに

1 組織概要

2 協力者リスト

3 ミッションステートメント

4 市場環境分析

5 ビジョンと新規事業

5-2 事業進捗プロセス評価指標

5-3 ロードマップ、マイルストーン

6 SWOTクロス分析

7 事業戦略・ビジネスモデル

8 セグメンテーションとターゲティング

9 ペルソナ設定

10 ポジショニングマップ

11 市場規模

12 商品計画ー商品・サービスの構造

12-2 「みずしま」のメッセージ

13 価格計画

14 実行体制

15 リスク対応策・緊急連絡体制

16 収支計画

おわりに

本事業計画書策定のためのミーティング記録一覧表

はじめに

本事業の概要

水島の公害問題の経験や地域再生の取り組みの現状を世界に情報発信することにより、今後危惧される環境破壊を未然に防止、抑制するとともに、将来の世代が安心して暮らせる地域環境の保全およびよりよい環境の創出に寄与するために、ツアーを立案し、受け入れ体制を強化する。ツアー立案、受け入れにあたっては、留学生が学びながら、企画立案過程に参加できるようにする。

本事業提案の社会的背景

近年、市民の環境問題への関心が高まる中で、自然保護の先進地を訪ねるエコツアーや、体験を重視した「旅」や「観光」が注目されている。

一方、急速な勢いで経済発展している東アジア諸国では、環境問題が緊急の課題である。「環境」という視点での情報発信・交流が重要となっている。日本の市民による環境保全活動は、「観光（地域の風土・特色を理解する、味わう）」や「国際理解・交流」という視点からみても重要であり、国内のみならず外国へ発信することに意義がある。

また、この地域から日本へ環境問題を学びに来る留学生は多いものの、地域との接点や地域に根ざした環境問題についての経験が乏しい。そのため実践的なスキルアップできず、人的資源として活用されていない。

一方、市民団体側は「環境保全・再生のとりくみをつたえたい」という思いが強く、適正な価格設定をせず、無料もしくは低価格の金額設定で視察受入を行っている現状がある。

本事業の担当者(氏名・役職)

リーダー（ 藤原園子・事務局長 ）
メンバー（ 磯部作・理事 ）（ 白神加奈子・研究員 ）
（ 塩飽敏史・研究員 ）

1 組織概要

法人名	(財) 水島地域環境再生財団		代表者名	理事長 森瀧健一郎	
所在地	〒712－8034 岡山県倉敷市水島西栄町 13－23		電話	086(440)0121	
			FAX	086(446)4620	
ホームページ	http://www.mizushima-f.or.jp		e-mail	webmaster@mizushima-f.or.jp	
組織体制	役 員	10 名(理事 8、監事 2)	会員 (2010 年 3 月)		個人 153 名、17 組織
	専従者	4 名	ボランティア		約10名
これまでの活動実績(環境活動、CB等)	創立年	1998 年	◆倉敷公害訴訟の和解金の一部を基金により 良い生活環境を創造する活動を展開するた め、様々な主体が協働する拠点として設立。 ◆備讃瀬戸海域の海底ゴミ実態調査、市民参 加型八間川調査、公害経験の継承(記録映画 制作)、公害・環境学習等教材開発など ◆10 年間の海底ゴミ実態把握調査や、市民参 加型の川の調査・教材作成が評価され、2010 年度に受賞した。「第一回いきものにぎわい コンテスト市民活動部門富士フィルム・グリー ンファンド活動奨励賞」、「日本水大賞審 査部会特別賞」		
	法人設立年	2000 年			
	ソーシャルビジネスとして位置づけ た事業活動は実施していない。 2005(平成 17) 年「JICA 参加型地域 社会開発の理論と実践」視察受入。島 根大学、熊本学園大学視察受入。 2008(平成 20) 年 「再発見! 水島 の魅力」メイドイン水島マップ作成 2009(平成 21) 年 吉備国際大学、 川崎医科大学等視察受入 他				
過去に受け た助成金・ 補助金等の 内容(単位: 千円)	時 期	対象事業	交付機関・制度名		金 額
	2008 年	八間川調査及び 教材作成	富士フィルムグリーンファ ンド助成金		1,000
	2009 年	公害遡及調査パ ンフレット作成	夢&環境基金助成金		700
直近3期分 の決算状況 (単位:千 円)	年月期	収 入	収支差額		正味財産(※)
	平成 22 年 3 月期 (平成 21 年度)	15,425	－16,425		108,128
	平成 21 年 3 月期 (平成 20 年度)	39,478	1,266		124,553
	平成 20 年 3 月期 (平成 19 年度)	44,109	692		123,287

２ 協力者リスト

ア 連携団体

団体の名称	所在地（市町村まで）	業種等	備 考
（財）公害地域再生センター	大阪府大阪市	公益法人・調査研究	鎗山善理子さん
（有）ミト・ワークス	岡山県吉備中央町	広報/HP 作成	大塚恭子さん
（有）語学研究システム	岡山県倉敷市	翻訳	藤本千秋さん
全観トラベルネットワーク	岡山県倉敷市	旅行業	近藤良啓さん
町家トラスト	岡山県倉敷市	NPO法人	中村泰典さん

イ その他協力者リスト（会員、寄付者等）

氏名・名称	住所・所在地（市町村まで）	備 考
趙 慧欣さん	岡山県倉敷市	アドバイス
中村開三さん	岡山県岡山市	アドバイス
古川明さん	岡山県倉敷市	アドバイス
山田和生さん	兵庫県尼崎市	アドバイス
倉敷市公害患者と家族の会	岡山県倉敷市	実施協力
松田葉子さん	岡山県岡山市	アドバイス

3 ミッションステートメント

1 組織のミッション	市民の力を結集し、地方公共団体の事業者その他全ての社会的主体の協力を得て、公害により疲弊した地域の再生や公害のない良好な環境の地域づくりを目指す。 公害経験とその教訓、地域再生の取り組みについて広く全国や世界各地と情報交換し、将来の世代が安心して暮らせる環境の保全及び創出に資することを目的とする。	
2 新規事業の目的	日本（水島）の公害問題の経験や地域再生の取り組みの現状を世界に情報発信することにより、今後危惧される環境破壊を未然に防止、抑制するとともに、将来の世代が安心して暮らせる地球環境の保全及びより良い環境の創出に寄与する。	
3 新規事業の目的の達成度をはかる指標	新規事業の業績	売上高 （自主事業収入額）
	環境保全面	利用団体数、参加者数
	財務改善面	経常利益（事業活動収支差額）
4 新規事業の目的を達成するための鍵	・コンセプトの明確さ、メッセージ性の強さ ・サービス品質の向上・維持 ・事業運営に関係する（協力を必要とする）個人、団体等との信頼関係の構築（緊密なコミュニケーション） ・訪れた人たちとの情報交流等、継続した関係の構築（顧客関係性→口コミ喚起）	
5 地域・協力者の期待・ニーズとの整合性	水島の経験を次世代や、他地域に活かしてほしい、という期待がある。	

【ミッションステートメント策定のプロセス】

策定期期 9／24～11／9	会合回数 4 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上		

4 市場環境分析

外部環境	マクロ市場環境	経済・社会情勢	・尖閣諸島等の政治的な問題の発生や、円高など経済情勢がある ・近年、市民の環境問題への関心が高まる中で、自然保護の先進地を訪ねるエコツアーや、体験を重視した「旅」や「観光」が注目されている ・日本への東アジア、特に中国人観光客の増加、日本への中国人留学生の増加がある ・中国などでの環境問題の深刻化などがあり、研究者が海外の視察をはじめている
	ミクロ市場環境	対象顧客のニーズ	・公害地域の克服してきた歴史や再生事例についての視察研修のニーズがある ・中国での環境問題意識の高まりや、日本の自然に対する関心の高まりがある ・中国内陸部では海をみる機会がなく、瀬戸内海の景観に対する評価が高い ・排ガス対策や廃水処理など日本の環境対策技術に対する関心の高まりがある ・日本国内の大学では、学生の研究や社会活動の体験が重視されていて、フィールドを探している状況がある ・日本と中国で共同研究や学術交流する大学がある。現地視察先を探している
		競合の状況	・自然豊かな地域でのエコツアーとしては、富士山や知床、屋久島などがある ・岡山県真庭地域は新エネルギーの取り組みを紹介するバイオマスツアーが実施されている。ツアー料金は資料代込 4,500 円 ・公害地域の現状を訪ねるスタディツアーをあおぞら財団が新潟水俣病、イタイイタイ病で実施した。継続するツアーではない ・公害地域の再生として水俣地域が有名であり、「ミナマタエコツーリズム宣言」というイベントを熊本県と水俣市が東京で開催し本格的に観光を始めた ・環境面でアジアに貢献する動きに北九州市の事例がある
内部環境	組織 (内部資源) (知的資産)		・国内外の視察受け入れ実績と経験 ・公害問題、環境問題に対する活動の豊富な実績・経験、ノウハウ ・団体設立の経緯から公害患者との絆がある ・大学や企業・行政との連携関係、環境活動を行う個人や団体等とのネットワーク
まとめ			強み（実績・ノウハウ）を活かし、水島ならではの視察研修の機会を提供することにより、競合との差別化を図る。

【市場環境分析のプロセス】

策定期間 9/24～12/3	会合回数 7 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上		

5 ビジョンと新規事業

目標						
	新規事業					
	評価指標	売上・利益目標	評価指標	社会的課題解決目標	評価指標	組織の財務改善目標
短期 1年後		売上 104.4 万円		利用団体数 15 参加者数 30		経常利益 0.11 万円
中期 3年後		売上 208.8 万円		利用団体数 30 参加者数 60		経常利益 23.3 万円
長期 6年後		売上 500.0 万円		利用団体数 60 参加者数 200		経常利益 63.6 万円
評価の 観点			評価者			

【組織ビジョンと本事業の目標策定のプロセス】

策定期間 11/9 ～12/3	会合回数 3回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上		

5-2 事業進捗プロセス評価指標

品質向上：利用者の意見収集件数、新規企画数、改善回数、企画会議数

☆品質向上：留学生とのミーティング回数

☆外部スタッフ：留学生ガイドの育成数（基準は要検討）

☆内部スタッフ：研修等参加実績（参加後の情報共有必須）

☆広報宣伝：問い合わせ数

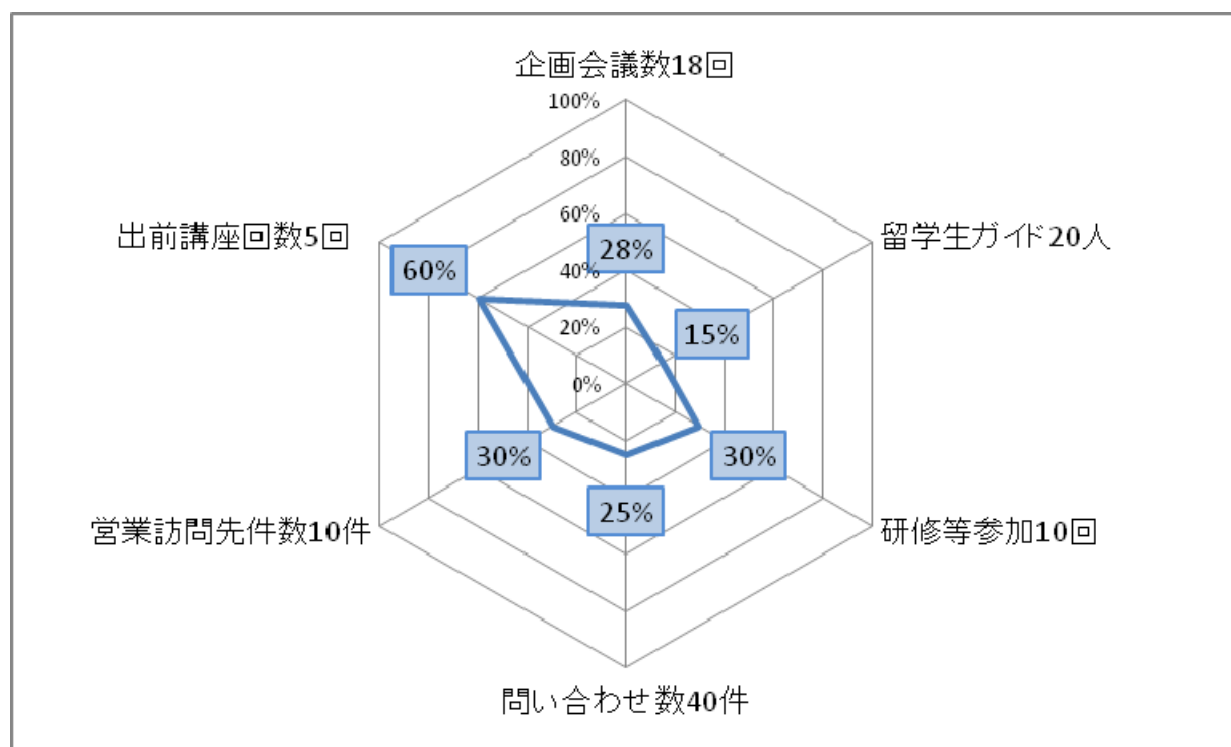
☆営業活動：訪問先件数（大学研究室、大学）

継続的な接触：メルマガ送付先の新規獲得件数

口コミの喚起：twitter、facebook のフォロワー数等

☆固定客化：リピーターへの出前講座回数

実績チャート表示例／1年目（23年度）



1年（平成 23 年度） 目標

全 体	各指標の実績づくり（記録）
品質向上	利用者の意見収集（満足・不満足度調査） 内部企画会議（月 2 回） 説明内容やプログラムの見直し（連携企業、団体等にも改善要請） 新たな標的の情報収集 ニーズに対応した説明テーマや内容の改善（企業/行政/医療機関/患者）
営業活動	国内研究室の情報収集 訪問先のリストアップ 新規営業訪問 10 件
外部スタッフ	留学生ガイド育成のプログラム（22 年度案作成、23 年度精査実施） ガイド候補の抽出、留学生ガイド研修等の実施 （実施 10 名）
内部スタッフ	研修等への参加計画作成 研修参加報告と情報共有の仕組みづくり
情報発信 (HP 誘導, 口コミ喚起)	各スタッフ twitter 等登録、ツイート（マーケティング目的が強くないこと） ターゲットの検索、フォロー （フォロー3,000、フォロワー1,000）
リピーター創出(口コミ喚起)	希望者の情報収集 メルマガ作成・配信（財団、地域のイベント情報、関連情報等）
固定客化	既存リピーターの大学等への出前講座の企画提案 出前講座の実施（23 年度 3 回）

2年(平成 24 年度) 目標

見える化	実績をもとにレーダーチャート作成・記録 （各指標の 10 段階評価の基準設定） 目標設定の見直し 進捗状況の把握、未達成項目の要因分析→改善策等の検討
品質向上	利用者の意見収集（満足・不満足度調査） 内部企画会議（月 2 回） 説明内容やプログラムの見直し（連携企業、団体等にも改善要請） 新サービスの企画 新市場対応の検討、プログラム作成
営業活動	新規営業訪問 10 件 再訪問 10 件 （計 20 件）
外部スタッフ	新規ガイド候補の抽出、 留学生ガイド研修等の実施 （実施 10 名）
内部スタッフ	研修等への参加計画作成 研修参加報告と情報共有の仕組みづくり
情報発信 (HP 誘導, 口コミ喚起)	Twitter・Facebook 等（フォロー3,000、フォロワー1,000） フォロワーの質向上...選別、区分
リピーター創出(口コミ喚起)	希望者の情報収集 メルマガ作成・配信
固定客化	既存リピーターの大学等への出前講座の企画提案 出前講座の実施（24 年度 6 回）

6 SWOT分析

	強み (S)	弱み (W)
内部環境	視察受け入れ実績がある 公害問題、環境問題に対する活動の豊富な実績・経験、ノウハウがある 公害患者との絆がある 留学生がいる大学とネットワークがある アジアの環境分野の研究者（日本環境会議）とネットワークがある 地域の企業・行政との連携関係がある 環境活動を行う個人や団体等、とのネットワークがある 瀬戸内海に面した立地 漁業者とのつながりがある コンビナートがある	有料サービス（視察受け入れ）の実績、ノウハウがない 国外の人との言葉の壁がある スタッフの不足 観光ツアー運営の資格・ノウハウがない 連携できる企業がある反面、つながりのない企業が存在する 経営感覚がない 外部との連携が必要であり、事業全体では外部依存度が高くなる
	機会 (O)	脅威 (T)
外部環境	日本への東アジア、特に中国人観光客の増加 日本への中国人留学生の増加 中国での環境問題意識の高まり 日本の自然に対する関心の高まり 瀬戸内海の景観に対するニーズがある 日本の環境対策技術に対する関心の高まり	政治情勢の変化 円高等経済情勢の悪化、変化 エコツアーやエコツーリズムを実施する環境保全団体がある 他の公害地域でも情報発信やツアー受け入れをしている。 異文化コンフリクト（軋轢）の発生（意見・感情・利害の衝突）

【SWOTクロス分析のプロセス】

分析時期 9/10 ～10/7	会合回数 3 回	分析のプロセスで出された特徴的な意見等 分析のプロセスで出された特徴的な意見等 ・ 内から見ただけでは気づかない強みがある ・ 他の団体を脅威と見るより、連携すべきではないか → 敵対してつぶす意味ではない。ライバルとして捉え、良いところは吸収する。さらに高品質のサービスの提供を目標とする。他に負けない優れた点があることで、相互にメリットのある連携が可能となる。それくらいの競争意識は不可欠
分析に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上		

7 事業戦略・ビジネスモデル

事業戦略

誰に

著しい産業発展により環境破壊が危惧される中国の学生や行政・研究機関等、
将来、地域の環境を担う個人・団体

何を

日本（水島）の公害問題の経験や地域再生の取り組みを学ぶツアー

どのように

公害、環境問題への取り組みの経験・ノウハウ、公害被害者ほか水島地域の市民・企業・行政との連携体制を活かし、水島の公害問題と日本の美しい自然やまちづくりを学ぶ視察研修メニューを企画・提供する。

また、各地域で活動する環境団体等とのネットワークを活用し、環境と観光を融合させた企画等、ツアーとしての付加価値の創出や魅力度向上を図るとともに、ターゲットとする学生や団体が目にしやすい媒体による情報発信、紹介や口コミの喚起等により、視察研修の誘致を促進する。

視察ツアー参加者を迎えるスタッフに、岡山県内の大学に在籍し環境問題を研究する中国人留学生を加え、中国語で対応するなど、独自のサービスの提供を目指す。

日本の現状に対する感想などを、通訳を介さず、中国語で直接伝えることで参加者に聞き易さと安心感を与えるとともに、環境問題に対する理解度の向上を図ることができる。この取り組みは、中国人留学生にとって“共に学ぶ環境教育の機会”として効果的かつ有意義なものとすることができる。

さらに留学生の活用は、他のエコツアーやエコツーリズム等に対して優位性を構築する取り組みとなる。

策定期期 9/10 ～ 12/3	会合回数 7 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上、田中		

組織ニーズ

金銭的利益

収益できる事業に展開したい

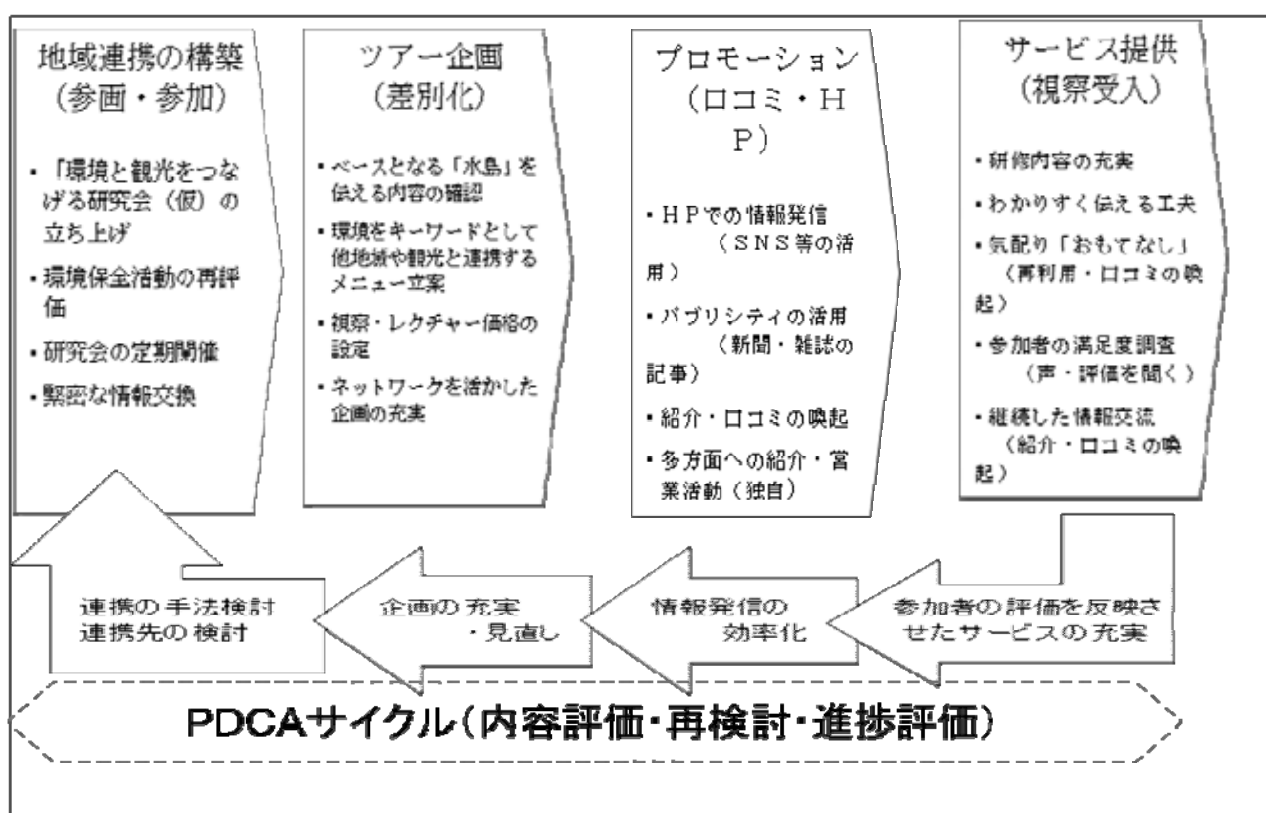
組織ミッションへの貢献度

水島の経験を伝えることそのもの

協力者の満足度・地域への貢献度

水島での経験が社会的意義があることが「認められる」満足感につながる

ビジネスモデル



【ビジネスモデル策定のプロセス】

策定期間 9/10 ～ 2/17	会合回数 16 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等 ・プロモーションの効果の高さは、紹介・営業、口コミ、パブリシティ、SNSの順と考える。顔の見える営業は重要
策定に係わったメンバー等（人数、役職等） 藤原、白神、塩飽、井上 研究会		

8 セグメンテーションとターゲティング

ア セグメンテーション（市場細分化）

市場の設定		市場設定が適切である理由
市場A	中国（環境分野）	・ 急激な開発による環境悪化が深刻で、海外事例の視察ニーズがある ・ 国内、特に岡山県内に中国からの留学生が多く、大学及び留学生との関係を持つことから、中国国内へも情報発信が可能である
市場B	日本・中国（医療・福祉分野）	・ このニーズに対して、みずしま財団での公害被害問題に取り組んできた経験を活かし、質の高い視察研修メニューの提供が可能である
市場C	日本国内の研究室・研究機関	・ 学ぶためのフィールドを求めるニーズがある ・ 地域の現場を見て、学びたいという意欲が高い

イ ターゲット顧客の明確化

新規顧客への新サービスの提供	顧客の区分	内 容
	市場A 中国国家重点大学の環境問題の研究者・学生	・ 将来、中国の環境対策を担う人材（留学生も含む） ・ 留学生が帰国後に、口コミ（長期的なターゲット）
	市場B 医療福祉分野の研究者、医学生、看護学生	・ 特に呼吸器分野の研究者や機関 ・ 環境悪化により医療福祉分野の対応が問題となりつつある地域の研究者等 ・ 水島の医療機関が果たした役割を知り、地域医療に活かすことができる、また活かすべき人材（中～長期的ターゲット）
	市場C 日本国内の社会科学・環境分野の研究者	・ 留学生を持つ研究室を誘致することで、市場Aの実現性を高める効果が期待できる ・ 学生のフィールド研究の場として、定期的な利用が期待できる（リピーター→固定客化）（短期的なターゲット）

【セグメンテーションとターゲティング策定のプロセス】

策定期間 10/7～11/9	会合回数 2回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等 ・市場の研究者は重要 ・実績のある市場Bも広がり期待できる
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上		

9 ペルソナ設定

【消費者が購入を願うシーン】

鳥取県にある私立大学の准教授、42歳の佐藤俊夫は、環境経済学を専門としている。環境マネジメント学を大学で教えており、研究室には、中国からの留学生が3割在籍している。

地域環境と人との関わりという今日的なテーマと合わせて、佐藤の「環境は現場で学ぶ」という姿勢が中国でも高く評価されており、環境分野の研究を志す学生の留学希望が増え続けている。研究室の卒業生は中国はもちろん、日本や世界各国の第一線で活躍している。

佐藤の悩みは、地域環境を学ぶフィールドの確保である。フィールドならどこでもよいというわけではない。フィールドの設定こそ、佐藤のこだわりであり、評価を高める最大の要因でもある。近年、彼のニーズに合致するフィールドが激減している現状がある。

佐藤の研究室に、1枚のチラシが届いた。手書き風のちらしは、「現場で現実に行き起こっていることを 間近にみる 感じる 考える」という題名だ。さらに続きを読むと、「岡山県倉敷市水島での学びを実習・研修の一環に加えてみませんか？」とある。

実際に視察にいった大学教員が「現場での生々しい風景や状況にインパクトがあり、留学生・学生にとって強く印象に残る学びとなった。」と回答している。また他の教員は「日本の高度経済成長の光と影を象徴する場が水島であり、避けて通れない。」という感想もあった。

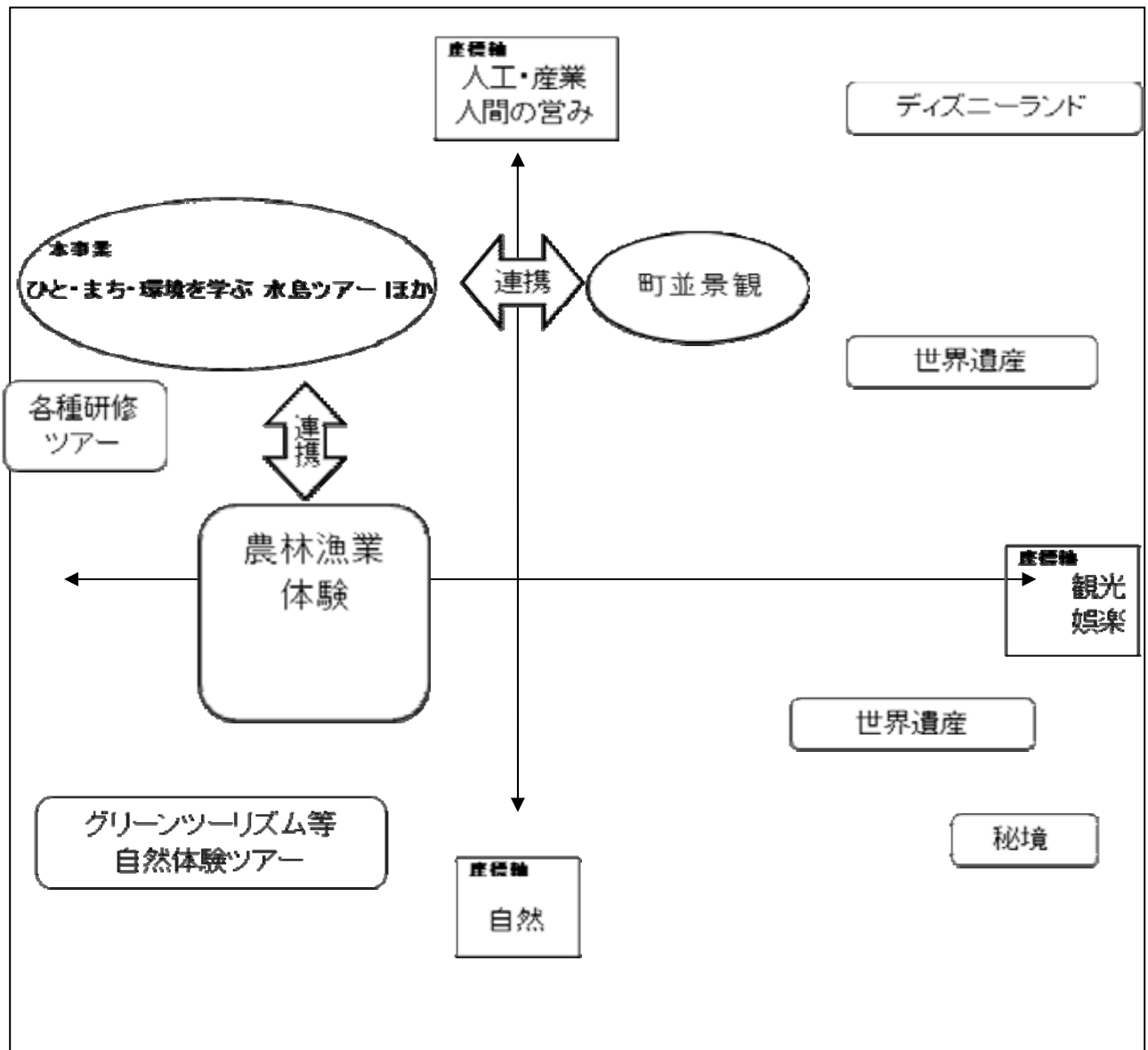
「これは留学生もいる我が研究室の実習によさそうだ」と思ったが、遠方であることや、時間の制限、さらにどういう効果が得られるのかが確信が持てないと思っていたら、個人で申込みができるモデルツアーがあるらしい。

「まずは、自分が参加して、効果をこの目で確かめてこよう」と、ツアーの詳細を聞くべく、問い合わせ先の電話番号を確かめた佐藤であった。

【ペルソナ設定策定のプロセス】

策定期期 11/9～2/10	会合回数 一回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原		

10 ポジショニングマップ



【ポジショニングマップ策定のプロセス】

策定期間 12/3 ～12/3	会合回数 1 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、井上		

11 市場規模

セグメント人口 A：中国国家大学重点大学 112 校×100 名＝11,200 人 (スタッフ調査・推計)
B：全日本民医連 都道府県連合会 46 組織 構成事業所 経営体数 352 事業所数 1,761 (全日本民医連HP)
C1：全国留学生（うち中国） 123,829 人 (72,766 人) 岡山県内留学生（うち中国） 2,149 人 (1,599 人) 県内 2,149 人中社会科学専攻 1,058 人 (岡山県内留学生受入状況調査結果 平成21年5月現在／岡山県留学生交流推進協議会) C2：研究室数・ゼミ数 中国・四国地域の研究室数・研究数 361

【需要見込み策定のプロセス】

策定期間	会合回数	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
10/7～1/12	4 回	
策定に係ったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、原、井上		

12 商品計画－商品・サービスの構造

コンセプト	・環境コミュニケーションの原点を学ぶツアー ・大気汚染が激甚だった時代、「協働」という概念がない中で、住民、行政、企業が「協働」して、今の環境をつくってきた ・対立をのりこえる力、立場をこえて信頼する力で、切り拓く ・学びと企画の融合 留学生と内容をつくる、その過程が商品	
基本性能	ツアー名	ひと・まち・環境を学ぶ 水島ツアー 環境と医療のつながりを学ぶ 水島ツアー ほか
付加サービス	・情報提供 日本全体の公害類型、説明 ・案内提供 瀬戸内海の景観美や、日本の良さを伝える	
社会的付加価値	交流人口の拡大、地域振興	
品ぞろえ (オプション)	・みずしまを学ぶプログラムを設定（基本コース） ・漁業体験、町並み視察等との連携も可能 ・その他、利用者の要望に対応	

【商品戦略策定のプロセス】

策定期間	会合回数	策定のプロセスで出された特徴的な意見等 ・漁業体験は集客が期待できる
11/9 ～2/4	7 回	
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上		

12-2 「みずしま」のメッセージ

「みずしま」で起こった激甚な大気汚染の解決のために、市民、企業、行政が、それぞれの立場で必死に取り組んだ。それは、緊張した関係性であり、協働という言葉のない時代の「協働」であった。

市民、企業、行政、それぞれが果たした役割について、過去の対立のなかから芽生えた「協働」が、今の「みずしま」の原点となっている。

「みずしま」の過去の経験と、それを乗り越えてきた軌跡、企業とともに暮らす今を、未来の「環境コミュニケーション」の構築を目指すあらゆる地域の人たちに伝えていくことが、水島財団の、そして水島市民としての大きな使命である。

私たちが伝えるべきメッセージ

- ・ **経済発展、効率性優先の弊害**
- ・ **水島の空気を何とかしたいという住民の思いとその力**
- ・ **市民が動かないと社会は動かない**
- ・ **公害病は治らない**
- ・ **企業の視点と住民の視点のギャップ**

□なぜ伝えなければならないのか

- ・ 公害問題に対処してきた住民・企業・行政の役割と業績を次の時代や、他地域の環境コミュニケーション構築に活かすため
- ・ 今後、地球規模で危惧される環境破壊を未然に防止、抑制するため
- ・ 将来の世代が安心して暮らせる地域環境をつくりだすため
- ・ 問題解決の方法をあらゆる立場の人が学ぶため
- ・ みずしまの経験を将来に継承していくため

13 価格計画

個人コスト

ツアー人数 10 人設定

人件費
スタッフ 25,300 円
留学生 7,000 円
合計 32,300 円

資料・弁当代
(1,700) 円／人

バス代 (中型)
(40,000) 円
季節変動有

最少催行人員 10 名
原価 89,300 円

設定価格

基本単価
9,800 円／人

ツアー価格
98,000 円
(最少催行 10 名)

顧客

アンケート調査結果
※モデルツアーアンケート
○9,800 円は適正か？
・「適正」とする回答が半数程度ある一方、「高い。日帰りツアーなら 5,000 円程度」との回答も複数見られた。

比較
・バイオマスツアー真庭
@4,500 円
(催行基本的に 20 人・少人数対応可)
・水俣エコツアー
・他地域エコツアー

【価格戦略策定のプロセス】

策定期期 11/9 ～2/17	会合回数 11 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等 ・ 9,800 円は、「日帰り旅行」とみれば高額 ・ 「研修」として価値を提供することが必要
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上 研究会		

1 3 価格計画

団体コスト

ツアー人数 15 人設定

人件費
(25,300) 円

案内費(留学生・学生)
(7,000) 円／

合計 32,300 円

別途
資料(1,000 円／人)
弁当代、バス代

設定価格

特別企画価格
() 円

定額
(50,000) 円

最低価格
(35,000) 円

顧客

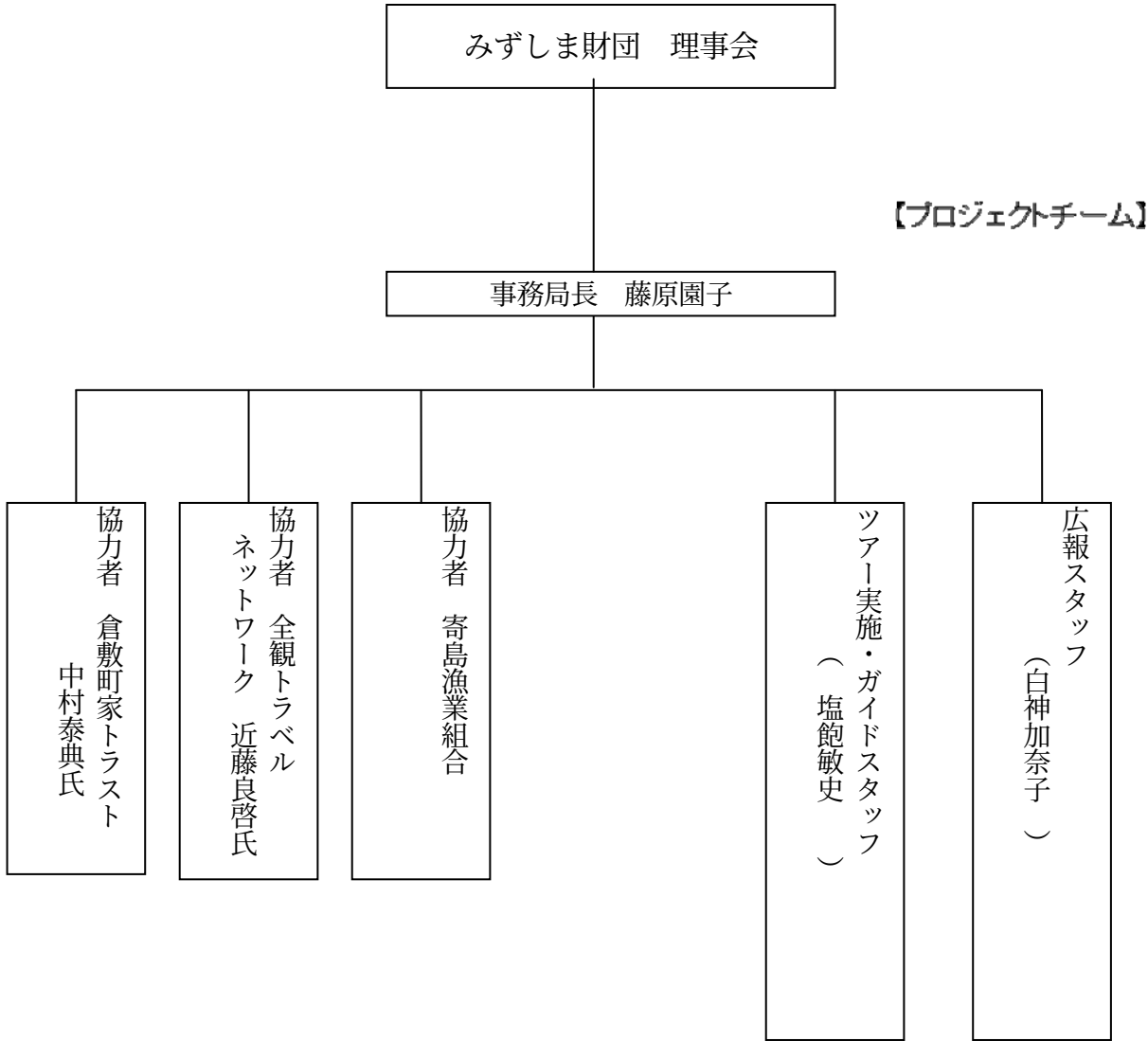
アンケート調査結果
(試作品への反応)
・ A大学X研究室
謝金予算 30,000
・ B大学Yゼミ
謝金予算 40,000

比較
・ 真庭バイオマスツアー
90,000 円(20 人設定)
・ 水俣エコツアー
・ 他地域エコツアー

【価格戦略策定のプロセス】

策定期間 11/9 ～2/17	会合回数 11 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上 研究会		

1 4 実行体制



【実行体制策定のプロセス】

策定期期 9/10 ～12/21	会合回数 8 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等 ・旅行業法に適切に対応するため地元旅行代理店の協力が 必要
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上 研究会		

15 リスク対応策

ア リスク対応表

優先順位	想定されるリスク	対応策	留意事項
1	患者の高齢化・減少 (公害問題の風化)	映像・電子データとして記録	
2	海外の場合は、政治的情勢の変化	短期標的とする国内の維持・向上を図る。	海外につながるターゲットが望まれる。
3	国内の場合は、経済情勢。特に、大学等研究機関の研究費削減	経済情勢に左右されない品質の維持、付加価値の向上に努める。	

イ 緊急連絡体制

優先順位	想定されるリスク	対応策	留意事項
1	ケガ・事故	119 へ連絡後、全観トラベルネットワークへ連絡	
2	旅行業法に関連するもの	全観トラベルネットワークが募集する形をとる	
3	通訳案内士法に関するもの	国際法務オフィス松田葉子行政書士	

[リスク対応表策定のプロセス]

撤退基準

- ・団体が存在する限り撤退はない

策定期間 9/24 ～1/12	会合回数 3 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上		

19 収支計画

(単位：円)

科目	1 年目	2 年目	3 年目
売上高	1,044,000	1,490,000	2,088,000
売上原価	752,400	1,092,500	1,504,800
売上総利益	291,600	397,500	583,200
売上高対売上総利益率	27.9%	26.7%	27.9%
人件費	180,000	250,000	250,000
その他販売管理費	100,000	100,000	100,000
経常費用計	280,000	350,000	350,000
経常利益	11,600	47,500	233,200
売上高対経常利益率	1.1%	3.2%	11.2%

利用団体数	15	20	30
個人数	30	50	60

※基本プランのみの見込み。添乗費用は売上原価に含む。

[収支計画策定のプロセス]

策定期間 11/9～2/17	会合回数 10 回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等 ・ある程度まとまった額が見込まれる留学生の視察研修プログラムに利用してもらう
策定に係ったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、白神、塩飽、井上 研究会		

おわりに

事業計画まとめ

水島では、環境・人の健康に配慮した視点を養い、企業活動・まちづくりに活かすことを学べる。

◇商品開発の気づき：「他にはないここしかないもの・体験・学びに、お客さんはお金を払う。」
受け入れ力を高めるツアー事業を事業化するにあたって、自分たちの組織にとっての「財産」、「価値」を見直す作業となった。他にはない、ここしかないものに価値があり、お金を払って知りたい・学びたい商品になる。

◇広報（伝える）での気づき：「疑問形ではなく、わかりやすく簡潔な言葉で表す。」
メッセージを明確にすること。言葉はそぎ落とし、わかりやすく簡潔に示すこと。
利用者の声を反映させたチラシにすることで、伝わりやすいことがわかった。

◇市場検討での気づき：「相手が困っていること・求めていることを知ることが大事である」
「患者の生活背景を想定した診断や応対する医療に従事できる人材を」と願う医学部教授や医療団体の関係者は、医学生の学びとして、水島の公害経験を題材としたいというニーズが把握できた。「地域再生、環境再生の見識を深めたい」ニーズは大きい。

◇今後について：「この事業が、関係性づくりの第一歩」

ここでしか学べないものの一つに、コンビナート企業と住民との関係性の変遷がある。企業の社会的責任についての認識が広がっている現在でも、企業の視点と住民の視点のギャップがある。公害という地域を揺るがす軋轢に、加害者企業と被害者住民との間で和解が成立したのは15年前。

和解までのプロセス

「協働」という言葉のない時代に、大気汚染を一定レベルに下げた「緊張感ある協働」があった。

※「緊張感ある協働」：住民が公害反対の声をあげ、行政（国）がその声に応えるために規制を作った。企業はその規制を守るために技術革新をした。それが国際競争に勝てる技術力になり現在に至る。

和解からのプロセス

企業優先の地域開発でできた水島に、住民から発信するまちづくりが始まり、企業が加わる姿勢が見え始めたこと。

当時の企業の考え方と、今の考え方の違い、さらには水島のまちづくりとの関わりについて語ってもらうことは、現時点では難しい状況があり、今後の課題である。
また、留学生の学びのしくみは、ツアー事業を重ねるなかで作りあげていく。

◇最後に

水島のツアーは、他のエコツアーや、日帰り観光ツアーと張り合うツアーではない。このツアーは「過去を顧みて未来を創る、研修ツアー」であるという位置づけをして、差別化を図り、アピールする方法を更に検討する。

【事業計画まとめ策定のプロセス】

策定期間 2/7～3/7	会合回数 3回	策定のプロセスで出された特徴的な意見等
策定に係わったメンバー等 (人数、役職等) 藤原、井上、石川		

本事業計画書策定のためのミーティング記録一覧表

(議事録は資料編資料 10 に別添)

打合せ記録	年月日	出席者氏名・役職等	議題
1-1	平成 22 年 8 月 5 日	中国四国地方環境事務所環境対策課古川課長、石川氏、地球環境パートナーシッププラザ室長平田氏、EPO ちゅうごく松尾氏、井上氏、田中氏、みずしま財団塩飽	実証事業の特性について、採択団体・応募概要等紹介、対策事業の進め方について
1-2	平成 22 年 9 月 6 日	倉敷芸術科学大学趙 慧欣先生 みずしま財団事務局長藤原	研究会委員就任依頼
2	平成 22 年 9 月 10 日	EPO ちゅうごく井上氏、田中氏、環境省中国四国事務所石川氏、みずしま財団藤原、同研究員塩飽	状況ヒアリング、事業の説明・確認、スケジュール確認
3	平成 22 年 9 月 14 日	山田和生氏 ((株)マイチケット会長)、鎗山善理子氏 (公害地域再生センター研究員)、原潤氏、みずしま財団藤原、同研究員白神	環境と観光をつなぐ研究会 事前検討 (ワーキンググループ)
4	平成 22 年 9 月 24 日	EPO ちゅうごく井上氏、田中氏、みずしま財団藤原、白神、塩飽	内部資源、外部環境の確認 (SWOT 分析)、事業戦略
5	平成 22 年 10 月 7 日	環境と観光をつなぐ研究会構成メンバー委員、EPO ちゅうごく井上氏、田中氏、みずしま財団藤原、白神、塩飽、原潤氏	第一回環境と観光をつなぐ研究会 (ニーズ把握と市場状況把握、法律的課題、メニュー案他)
6	平成 22 年 10 月 25 日	アドバイザー委員、環境省中国四国地方環境事務所石川氏、EPO ちゅうごく杉山氏、井上氏、みずしま財団藤原、白神、塩飽	アドバイザー委員訪問 (コンセプトの見直し等について)
7	平成 22 年 11 月 9 日	EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原、白神、塩飽	商品開発
8	平成 22 年 11 月 17 日	吉備国際大学中村開三氏、留学生学生 40 名、みずしま財団藤原、塩飽	視察受け入れ、ニーズ把握
9	平成 22 年 11 月 26 日	環境省地方事務所石川氏、EPO ちゅうごく杉山氏、井上氏、みずしま財団磯部理事、藤原、白神	中間連絡会 (東京)
10	平成 22 年 12 月 2 日	環境と観光をつなぐ研究会委員、地方事務所課長古川氏、石川氏、EPO ちゅうごく杉山氏、田中氏、みずしま財団専務理事太田、藤原、白神、塩飽、原潤氏	第 2 回環境と観光をつなぐ研究会 (ツアープログラム案、外部連携について)
11	平成 22 年 12 月 3 日	EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原、白神、塩飽	原価 (費用) 計算、価格設定、収支計画策定指導
12	平成 22 年 12 月 3 日	岡山大学金研究室 みずしま財団塩飽	視察受け入れ、ニーズ把握
13	平成 22 年 12 月 6 日	中国四国民医連事務局 20 名、みずしま財団塩飽	視察受け入れ、ニーズ把握

打合せ記録	年月日	出席者氏名・役職等	議題
14	平成 22 年 12 月 8 日	NPO 法人倉敷町家トラスト代表理事中村泰典氏、みずしま財団藤原、白神	実証モデルツアー実施の具体化について
15	平成 22 年 12 月 14 日	EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原、白神	実証モデルツアー実施、価格設定、資料等について
16	平成 22 年 12 月 16 日	(有)ミト・ワークス大塚氏、みずしま財団藤原、白神	HP 整備、および広報・マーケティング・チラシ作成等について
17	平成 22 年 12 月 21 日	EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原	報告書資料、実証ツアーについて
18	平成 22 年 12 月 21 日	全観トラベルネットワーク専務近藤氏、課長牧野氏、EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原	価格相談と、実証ツアー具体化について
19	平成 22 年 1 月 12 日	環境省地方事務所石川氏、EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原	事業の進捗確認、事務連絡
20	平成 22 年 1 月 25 日	岡山大学国際センター、みずしま財団藤原	電話にて報告書掲載許可について尋ねた
21	平成 22 年 1 月 31 日	行政書士松田葉子、みずしま財団藤原	メールにて、通訳案内士法と留学生のガイドについて問い合わせた。
22	平成 23 年 2 月 2 日	EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原、白神、塩飽	商品開発再検討、報告書資料について
23	平成 23 年 2 月 4 日	ツアー参加者 21 名、みずしま財団藤原、白神、塩飽、原潤氏	モデル実証ツアー「技術と暮らしと、私と未来」実施
24	平成 23 年 2 月 7 日	EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原	メッセージ、想いの表現について
25	平成 22 年 2 月 21 日	環境省地方事務所石川氏、EPO ちゅうごく松尾氏、井上氏、みずしま財団藤原、白神	東京報告会 事業実施報告
26	平成 23 年 2 月 24 日～ 25 日	みずしま財団白神	第三回日中 NGO シンポジウム「環境教育」をめぐって、シンポジウム参加、事例報告
27	平成 22 年 3 月 1 日	EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原	報告会での意見の対応、報告書作成について
28	平成 22 年 3 月 2 日	倉敷芸術科学大学趙 慧欣先生 みずしま財団事務局長藤原、白神	来年度の計画について事前ヒアリング、留学生の状況等
29	平成 23 年 3 月 7 日	環境省地方事務所石川氏、EPO ちゅうごく井上氏、みずしま財団藤原	報告会対応、報告書作成、提出について

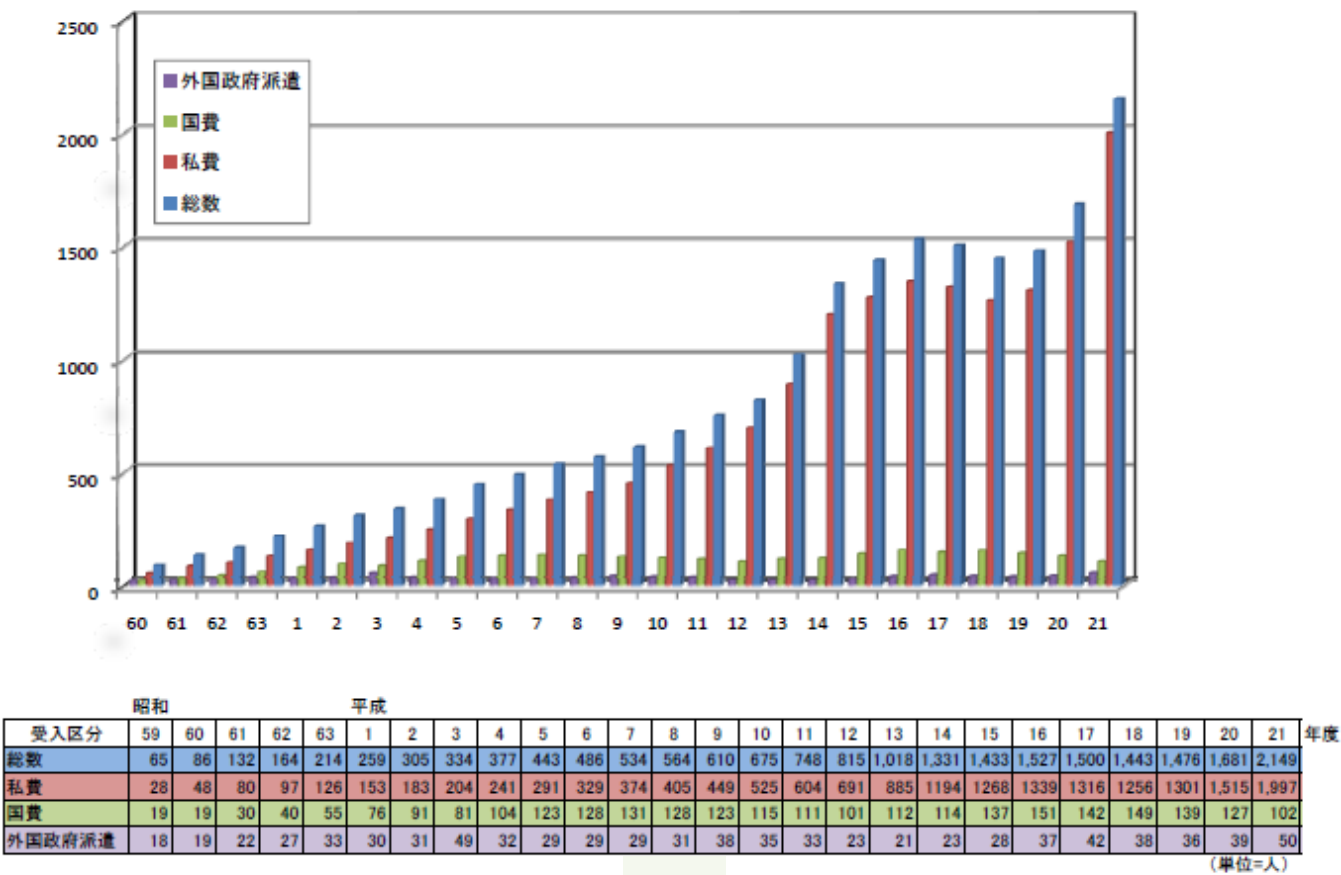
第 2 部 資料編

資料編目次

資料 1. 市場調査 岡山県内留学生受入れ状況	1
資料 2. 市場調査 類似ツアー等開催状況	5
資料 3. 提供可能なテーマ別メニュー	7
資料 4. ニーズ別ツアープログラム	11
資料 5. ツアー紹介ホームページ	14
資料 6. モデルツアー実証調査	17
1. 環境・社会学習視察実体験モデルツアー開催概要	17
2. モデルツアー案内チラシ	20
3. モデルツアー詳細・申込書	21
4. モデルツアー参加者アンケート	23
資料 7. 水島視察参加者へのアンケート調査	35
1. 吉備国際大学アンケート	35
2. 岡山大学アンケート	40
3. 中四国民医連事務局アンケート	44
4. 視察団体引率指導者アンケート	47
資料 8. 顧客調査	50
資料 9. 打合せ記録	54

資料 1．市場調査 岡山県内留学生受入れ状況

1 岡山県内外国人留学生の推移



資料：「岡山県内留学生受入れ状況調査結果（平成 21 年 5 月現在）」
／岡山県留学生交流推進協議会。掲載承諾平成 23 年 1 月

2 岡山県内留学生数（大学別・出身国別）

平成21年5月1日現在

在籍区分 国籍・地域別		岡山大学	岡山県立大学	ノートルダム清心女子大学	岡山商科大学	岡山理科大学	就実大学	山陽学園大学	倉敷芸術科学大学	くらしき作陽大学	吉備国際大学	美作大学	川崎医療福祉大学	I P U・環太平洋大学	就実短期大学	中国短期大学	順正短期大学	川崎医療短期大学	津山工業高等専門学校	合計
アジア	中国	394	8	2	439	84	11	172	207	5	263				2	2	3	7		1,599
	韓国	30	9		48	6		5	21		95		2				4			220
	マレーシア	30				16													13	59
	バングラデシュ	28			1			1			1									31
	ネパール	1				1		2	16			1								21
	インドネシア	11							1										2	14
	パキスタン	1																		1
	インド	2											1							3
	スリランカ	5							10											15
	ミャンマー	6							3											9
	タイ	4																		4
	フィリピン	5																		5
	モンゴル	4														2			1	7
	ベトナム	17			5	1	1	8	13										2	47
	カンボジア	3	1						1		3									8
	台湾	6		2	2	1			1		11									23
中近東	ヨルダン	2																		2
	アフガニスタン												1							1
	トルコ	7																		7
	クウェート	1																		1
アフリカ	エジプト	16																		16
	ナイジェリア	3																		3
	ケニア	3																		3
	ガーナ	4																		4
	モリタニア	1																		1
	エチオピア	1																		1
	セネガル													1						1
	スーダン	1																		1
欧州	アイスランド	1																		1
	イギリス	2																		2
	フランス	4																		4
	セルビア	6																		6
	ルーマニア	1																		1
	ペラルーシ	1																		1
	ロシア	2			1															3
	ポーランド	1																		1
オセアニア	オーストラリア	4																		4
北米	アメリカ合衆国	13																		13
中南米	メキシコ	1																		1
	ブラジル	3																		3
	パラグアイ	2																		2
合計(41カ国・地域)		627	18	4	496	109	12	188	273	5	373	1	4	1	2	4	7	7	18	2,149

3 岡山県内機関別留学生数

平成21年5月1日現在

学校名	区分	留学生総数	大学院	学部(含短大)	高等専門学校	所在地
岡山大学		627 (611)	493 (462)	134 (149)		岡山市
岡山県立大学		18 (16)	11 (12)	7 (4)		総社市
ノートルダム清心女子大学		4 (4)	2 (2)	2 (2)		岡山市
岡山商科大学		496 (360)	51 (41)	445 (319)		"
岡山理科大学		109 (78)	16 (12)	93 (66)		"
就実大学		12 (14)	0 (2)	12 (12)		"
山陽学園大学		188 (185)	0 (0)	188 (185)		"
倉敷芸術科学大学		273 (145)	10 (7)	263 (138)		倉敷市
くらしき作陽大学		5 (0)	0 (0)	5 (0)		"
吉備国際大学		373 (233)	19 (21)	354 (212)		高梁市
美作大学		1 (2)	0 (1)	1 (1)		津山市
川崎医療福祉大学		4 (3)	4 (3)	0 (0)		倉敷市
IPU・環太平洋大学		1 (1)	0 (0)	1 (1)		岡山市
就実短期大学		2 (3)	0 (0)	2 (3)		"
山陽学園短期大学		0 (2)	0 (0)	0 (2)		"
中国短期大学		4 (0)	0 (0)	4 (0)		"
順正短期大学		7 (1)	0 (0)	7 (1)		高梁市
川崎医療短期大学		7 (6)	0 (0)	7 (6)		倉敷市
津山工業高等専門学校		18 (17)	0 (0)	0 (0)	18 (17)	津山市
計		2,149 (1,681)	606 (563)	1,525 (1,101)	18 (17)	

単位＝人 ()内は前年

4 出身地域別留学生数

平成21年5月1日現在

平成20年5月1日現在

地域	区分	岡山県		全国	
		留学生数	比率(%)	留学生数	比率(%)
アジア		2,066 (1,604)	96.4 (95.4)	114,189 (109,495)	93.0 (92.4)
中近東		11 (16)	0.5 (1.0)	842 (797)	0.7 (0.7)
アフリカ		30 (27)	1.4 (1.6)	1,084 (989)	0.9 (0.8)
欧州		19 (19)	0.9 (1.1)	3,819 (3,547)	3.1 (3.0)
オセアニア		4 (1)	0.2 (0.1)	544 (534)	0.4 (0.5)
北米		13 (6)	0.6 (0.4)	2,343 (2,112)	1.9 (1.8)
中南米		6 (8)	0.3 (0.5)	1,008 (1,024)	0.8 (0.9)
計		2,143 (1,681)	100.0 (100.0)	122,821 (118,498)	100.0 (100.0)

単位＝人 ()内は前年

5 出身国・地域別留学生数(上位10か国・地域)

平成21年5月1日現在

単位＝人 ()内は前年

区分 国・地域	岡山県	
	留学生数	比率(%)
中国	1,599 (1,221)	74.4 (72.6)
韓国	220 (200)	10.2 (11.9)
マレーシア	59 (47)	2.7 (2.8)
ベトナム	47 (22)	2.2 (1.3)
バングラデシュ	31 (27)	1.4 (1.6)
台湾	23 (25)	1.1 (1.5)
ネパール	21 (4)	1.0 (0.2)
エジプト	16 (14)	0.7 (0.8)
スリランカ	15 (10)	0.7 (0.6)
インドネシア	14 (17)	0.7 (1.0)
アメリカ合衆国	13 (5)	0.6 (0.3)
その他	91 (89)	4.2 (5.4)
計	2,149 (1,681)	100.0 (100.0)

7 専攻分野別留学生数

平成21年5月1日現在

平成20年5月1日現在

区分 専攻分野	岡山県		全国	
	留学生数	比率(%)	留学生数	比率(%)
人文科学	342 (328)	15.9 (19.5)	29,189 (27,763)	23.6 (23.4)
社会科学	1,058 (756)	49.2 (45.0)	48,259 (47,611)	39.0 (40.2)
教員養成等	38 (60)	1.8 (3.6)	2,981 (3,124)	2.4 (2.6)
芸術	5 (1)	0.2 (0.1)	4,006 (3,439)	3.2 (2.9)
家政	6 (3)	0.3 (0.2)	2,772 (2,514)	2.2 (2.1)
医歯薬学等	129 (97)	6.0 (5.8)	2,768 (2,692)	2.2 (2.3)
農学	26 (40)	1.2 (2.4)	2,887 (2,857)	2.3 (2.4)
工学	204 (164)	9.5 (9.8)	19,511 (18,059)	15.8 (15.2)
理学	79 (51)	3.7 (3.0)	1,526 (1,586)	1.2 (1.3)
その他	262 (181)	12.2 (10.8)	9,930 (8,853)	8.0 (7.5)
計	2,149 (1,681)	100.0 (100.0)	123,829 (118,498)	100.0 (100.0)

単位＝人 ()内は前年

資料２．市場調査 類似ツアー等開催状況

エコツアー等開催事例

キーワード：エコツアー、学び、バスツアー、学び、環境学習

区分	団体名	ツアー名	旅行業 者有無	日程	料金	最少催行 人数	内容
団体実施が実施 している	(特活) ジュレ ー・ラダック	第４回国内ツア ー那須 持続可 能な環境を学ぶ	なし	１泊２日	11,000 円	14 名 (参 加者)	環境に優しい生活を学ぶツアー。非電化工房訪問ほ か 交通費 (電車代・ガソリン代)、お酒代、温泉代等は実 費となります。
	みなまた環境 大学	じっくり編	なし	2 泊 or3 泊	10,000 円～30,000 円	15 名	水俣の地元学が中心。団体ごとに申込先になっている。
	NPO法人流 域自然研究会 (いるか丘陵ネ ットワーク事務 局)	首都圏グリーン ベルト縦断バス エコツアー○	なし	日帰り	大人 6,000 円、中 学生以下 5,000 円 (マリンパーク入園 料・昼食代・資料 代・保険代込み)	40 名	ガイドは流域・丘陵保全の専門家 慶應義塾大学教 授 岸 由二 氏, ★京急油壺マリンパークで水族館の 裏側探検。子どもたち限定アシカと握手できる特典 つき！ 共催：慶應大学・日吉丸の会、鶴見川流域ネットワー キング、かながわトラストみどり財団
協議会形式 (環境省がエコツ アーを拡大する ために協議会形 式の開催をよび かけている。)	宮津市エコツ ーリズム推進 協議会 (宮津 市産業振興室 内)	北近畿最大級 のブナ林を歩く 宮津世屋高原 の黄葉林トレッ キングツアー	(株) 明 星観光サ ービス	日帰り	7,800 円 (昼食代 込)	15 名	山頂で「秋の味覚・里山弁当」をご賞味いただきます。 下山後は、今年リニューアルしたしおぎり荘のお風呂 で心も体もリフレッシュしてください。 お風呂あがり には地元・飯尾醸造の果実酢を使った“体がよろこぶ” ドリンク。日本エコツーリズム協会優秀賞、ガイド付き
	蒜山エコツー リズム推進事 業実行委員会	津黒生きもの ふれあいの里・ま るごと体験！	なし	日帰り。2 時 間	無料又は500円～ 1,000円	定員20名 ～	現地集合
	エコアイランド なおしま推進 委員会	エコアイランド なおしま推進委 員会	なし		無料, 環境関連施 設の見学は無料・ バス代は片道100 円	1名より催 行、定員 40名	最先端の廃棄物処理施設の見学を通じた環境学習 や瀬戸内の自然や文化を満喫できる直島へぜひお越 しください 申込は直島観光協会まで。連絡先は県庁職員

区分	団体名	ツアー名	旅行業者有無	日程	料金	最少催行人数	内容
団体が旅行業法の資格を持っている, 資格者がいる	ホールアース自然学校		有資格				旅行業約款, 標識をきちんと出している。静岡県知事登録旅行業者第3-559号 ホールアース体験交流企画 国内旅行業取扱管理者 平野達也
	旅の談話室 青い地球	洞海湾水辺めぐりとエコタウン～再生と未来～	有資格	日帰り(7時間)	おとな2,900円、小学生1,900円	最少催行1名 (最大定員5名まで) ※少人数制	かつて公害で汚染され「死の海」と言われた洞海湾の今と最新の環境産業の今をちょっと気軽に1日探訪。北九州市の地域通貨「カンパス(北九州市民環境パスポート)」参加者の方には、割引があり。北海道のねおす等の経験あるスタッフが九州で2007年設立。
旅行会社 / 観光協会が主体	(株) 農協観光西日本グリーンツーリズム	瀬戸内海、前島で過ごす夏休み!! (こどもファーストデイ☆)	旅行会社が実施	宿泊 1泊2日	@19,800円(大人) @18,800円(小人)	最少催行人数: 25名 定員: 40名	島の遊び大満喫! ゆたかな自然と過ごす島の休日。選べる体験, 天体観測, 漁業体験
	社団法人香川県観光協会	TOM クルーズ	観光協会が実施	宿泊 2泊3日, 。日帰りコースなど、モデルコースも用意			TOM クルーズは、瀬戸内海の直島 (Technology テクノロジー)、小豆島 (Olive オリーブ)、豊島 (Mild マイルド) で、自然観察や体験学習が行えるエコツアー
	JTB 法人東京 教育第二事業部	日本の政治・経済の中心地を見る!	旅行会社が実施	日帰り	大人 8,500 円、子ども 8,000 円	最少催行人員: 40名	安田教育研究所 / 六本木探検隊 / はとバス / Eikoh まなび倶楽部
	真庭観光連盟 バイオマスツアー		観光協会が実施		宿泊含ない料金で、2日間は8000円、日帰りは4500円		バス代、レクチャー資料代、昼食代、視察中の保険が含まれます。申込先は中鉄美作バス株式会社

資料3．提供可能なテーマ別メニュー

□ 住 民

提供可能なテーマ別メニュー

メニュー	具体的な内容	メッセージ
①公害による農業・漁業被害	■呼松で、みずしま財団職員が解説 ・ミカン枯死、イ草先枯れ、梅が結実しない、ネギ畑一夜で全滅 ・高梁川河口玉島地先ノリ養殖が大不作。 ・呼松港にボラ、イナ、ウナギ、ハゼなど大量に死んで浮かぶ。 ・1960年代～70年代に農業、漁業など第一次産業に被害がおきた。農協や漁協が県や市に抗議した。	最初に現れた公害 ・被害の状況 ・住民の対応
②公害被害者の声	■公害患者が、あさがお会館で語る。 ・当時の被害の様子。 ・現在も薬が手放せない暮らし。薬による副作用がある。	水島の空気を何とかしたいという住民の思い、力 ・患った者でないと分からない苦しみ ・きれいな空気を取り戻したい ・未来に残したい ・こんな想いを二度とさせたくない ・生活に入り込んできた公害
③声を上げる住民、支援者	■公害患者会太田事務局長が解説 ・公害病友の会結成、公害患者会 ・運動の展開と支援の拡大 ・裁判、交渉	市民が動かないと社会は動かない ・環境破壊の被害は弱者ほど大きい ・被害は今もつづいている ・健康被害は回復しない →未来に向けて
④科学者・医療従事者	■みずしま財団研究員 ・公害が激甚だった時代には、科学的調査で住民運動を支援 ・公害死亡患者 501 例を病歴等遡って調査した「遡及調査」 ・公害患者の生活の質向上のために、呼吸器リハビリテーションの開発と普及 →病気は治らないけれども、少しでも楽に過ごせるための工夫を指導	・専門家の社会的な役割。
⑤和解の意味 →環境コミュニケーションの原点	■みずしま財団研究員 ・対立を乗り越えて、生活環境の改善、環境によいまちづくりという点で、企業と被害者が和解した。	和解までのプロセス ・和解の意味 ・協働のない時代に、大気汚染を一定レベルに下げたのは「緊張感ある協働」での取り組みだった。緊張感ある協働とは、住民が公害反対の声をあげ、行政がその声に応えるべく規制をつくり、その規制を守るために企業が技術革新をした。その関係性。

⑥環境再生	・2000 年みずしま財団設立まちづくり、環境再生へ ・海の環境再生、体験型の学び（漁業体験&海底ゴミ調査） ・環境再生のまちづくり	和解からのプロセス ・企業優先の地域づくりを住民の手に取り戻した。 ・住民から発信するまちづくりがはじまった。 ・やっと企業が加わる姿勢が見えてきた。
⑦呼吸器リハビリテーションの考え方・指導	■理学療法士佐藤氏、医師里見氏 ・呼吸器リハビリテーション指導、実演	・公害は過去のものではない。今の健康づくりに活かされている。

□ 行 政

メニュー	具体的な内容	メッセージ
①日本で最初の国立公園 瀬戸内海	■鷺羽山 or 寄島 ・日本で初めて国立公園に指定された瀬戸内海 ・景観 ・海底ゴミ問題 ・漁業の現状（寄島では、漁業体験も可能）	見えないところにも、問題がある ・瀬戸内海を巡る環境問題は多岐にわたっていること。（景観保全、水質保全、ごみ問題）
②地域開発	■場所 ・水島地域全体を見渡せる鴨が辻（鷺羽スカイライン途中）で解説 ■内容： ・1952（昭和 27）年 岡山県が水島地区の国有地を買収。岡山県が水島臨海工業地帯造成計画案を作成、開発に着手。岡山県企業誘致条例制定。 ・地震が少ないこと、高梁川流域の水が豊富であったこと、埋め立てやすい浅瀬が広大にあったことから率先して開発された。	経済発展、効率性優先の弊害 ・岡山県が積極的に地域開発にとりくんだこと。行政の責任は裁判では問われていないが、公害発生させない努力をもっとさきにすべきではなかったのか？ ・高梁川河口の高大なアマモ場・干潟が、干拓と埋め立てで全滅し、環境が激変した。 ・海からの風と、山に囲まれる地形で、汚染物質が対流し、公害が発生した水島。計画で見抜けなかった失敗。

③倉敷市の公害対策・対応	■倉敷市環境監視センターで、倉敷市職員が解説 ・ 倉敷市市条例での救済制度。 ・ 1970（昭和 45）年設置。市内 23 測定局で測定された大気汚染データは、テレメータ装置により専用電話回線を使用して 1 分毎に環境監視センターに集められ、パソコン処理、表示されている。 ・ 1972（昭和 47）年 倉敷市特定気道疾病医療給付条例（公害病医療救済制度）が倉敷市議会で採決、8／1 施行。 ・ 1973（昭和 48）年 国の公害健康被害補償法 ・ 1975（昭和 50）年 倉敷市水島地域が公害健康補償法の適用区域に指定される。 ・ 2000 年代に入って光化学オキシダント悪化	継続的な監視体制の重要性 ・ テレメータ装置による 24 時間監視測定は、全国的にみて最先端。 ・ 測り続けているからこそわかることがある。光化学オキシダントは近年悪くなっている。 ・ 全国的には観測ポイントが減っている。倉敷市は継続的に観測している。
④市民の健康づくりに、公害経験を生かす	■倉敷市保健所職員 ・ 今後増え続ける、慢性閉塞性呼吸器疾患（COPD）患者の予防と早期発見。 ・ 呼吸器リハビリテーションの普及啓発事業の一環として、肺年齢測定を地域の健康展で開催。医師、みずしま財団と連携。	公害病は治らない！ ・ 今も続く患者の苦しみを少しでも楽にするための方法論が開発されている。公害患者だけでなく、呼吸器疾患患者にとって有効な方法。 ・ その開発を、行政・医師・NPO が協働して行っている。最先端の取り組み。

□ 企 業

メニュー	具体的な内容	メッセージ
コンビナート工場 見学	①世界トップレベルのコンビナート ■コンビナート企業関係者 ・一般的なコンビナートは、関連産業が集積している立地的側面 ・水島はさらに、企業間の隔たりをなくして、日本有数のコンビナートに成長した（海底トンネルで原料や副産物の共有をする） → 北九州との差 （生産盛んな水島と、すでに産業構造が転換している北九州）	水島の特性 ・水島コンビナートの全国的な位置づけ（経済面・企業的視点） ・企業間連携の特殊性 ・都市計画の不備（生活スペースと工場が余りにも近い、企業優先の道路づくりなど）
	②公害対策施設見学 ■三菱化学、中国電力、JFE、JX 日鉱日石など企業の担当者が、自社の生産と、環境対策について解説 ■内容： ・先端技術での生産 ・排ガス、排水処理の企業努力（公害対策・社会的責任論） ・温暖化防止は省エネルギー効率を高め、貢献している。	企業の視点と住民の視点のギャップ ↓ 規制で技術力向上 規制があったから技術が向上した。 その規制は行政（国）がつくった。 住民が声をあげて訴えたから、規制ができた。
	③廃棄物処理 ■最終処分場（(財) 環境保全事業団）、ガス化溶融炉（エコワークス） ・産業廃棄物処理のしくみ ・先進的技術	集合高煙突 集合高煙突での公害対策は、汚染物質を広く遠くにとばしただけで効果がなかった。SO ₂ については総量規制で効果があらわれた。
	④公害・集合高煙突 ■場所：みずしま財団研究員が、松江地区で解説 ■内容 工場建設当時は、法規制がなかった公害の発生 1973 年 SO ₂ の総量規制、廃水処理 集合高煙突は、広く遠くにとばして濃度を下げる効果。事例として 1971 年 10 月 7 日倉敷旧市域の SO ₂ 前年 4 倍に。	空気レベルの評価
	⑤今の企業の社会的責任（CSR）の視点からいた、倉敷公害 ■企業 OB 等 当時の関係者の声を聞く → 今後の課題	企業の社会的責任の重要性 ↓ 当時の企業の担当者の考え方と、 今の考え方の違い 水島のまちづくりとの関わり

資料４．ニーズ別ツアープログラム

ツアー名	
ひと・まち・環境を学ぶ 水島ツアー	
社会科学・環境・地域デザイン コース	
ニーズ 地域再生、環境再生の見識を深めるために、水島の経験を活かしたい	行程 10:00 倉敷駅 バス乗車 10:20 鷺羽山スカイライン鴨が辻でバス下車 地域開発（行政）の歴史を聞く。
対象： ①研修・実習企画担当者 ・ 環境デザイン・都市計画・地域計画系大学関係者 ・ 法律・経済系大学関係者 ②個人 ・ 環境デザイン・都市計画・地域計画学系学部生、大学院生、指導教官 ・ 法律・経済系学部生、大学院生、指導教官 ・ 環境 NGO スタッフ等、地域の環境を担う人材、その育成者等	11:00 工場見学 企業の公害対策 移動バスの中で解説 集合高煙突による公害対策の問題点 12:00 昼食（地域の食材を活かしたお弁当） 13:00 倉敷市環境監視センター 行政の立場 24 時間での公害監視システム 14:00 公害患者さんのお話 健康被害のこと、公害反対運動のこと 現在の生活の質の維持、改善、今後の要望・期待など
ツアーのねらい／効果 環境・人の健康に配慮した視点を養い、企業活動・まちづくりに活かす。	15:00 科学者・医者が果たしてきた社会的役割 倉敷公害訴訟和解の意味を学び、課題解決について考える。 16:00 質疑応答・ふりかえり 16:30～17:00 バスにて倉敷駅へ、到着後解散

ツアー名 環境と医療のつながりを学ぶ 水島ツアー 医療・福祉コース	
ニーズ 地域の環境と疾病の関係について 学びたい・学ばせたい	行程 10:00 倉敷駅集合 バス乗車 10:30 鷺羽山スカイライン鴨が辻でバス下車、 地域開発(行政)の歴史を聞く
対象: ①研修・実習企画担当者 - 公衆衛生・予防医学分野の医学系大学関係者 - 地域に根ざした医療・福祉について職員研修をしたいと考えている病院スタッフ ②個人 - 保健・医療・福祉系大学院学部 の学生 - 社会医学会や呼吸器学会の会 員	11:00 呼松を通り、松江でバス下車、 公害対策として集合高煙突で対処し ようとした企業対策の解説。コンビ ナートの工場と住民の住まいの距離 的な近さを実感してもらい、環境と病 気の関連性について考える。 12:00 昼食(地域の食材を活かしたお弁当) 13:00～ 公害患者さんのお話 健康被害のこと、公害反対運動のこと 現在の生活の質の維持、改善、今後 の要望・期待など
ツアーのねらい／効果 患者の生活背景を想定した診断や応 対する医療に従事できる人材を育成す る。	13:30～ 医師のお話 医師としてどのように対応してきたか。 患者を診る視点 14:30～ ふり回り 15:30～ 倉敷駅、解散

ツアー名	
半日で学ぶ、水島ツアー	
短時間コース	
ニーズ 時間に限られた中で、有効に水島の公害経験を学びたい	行程 10:00 倉敷駅集合 バス乗車 10:30 鷺羽山スカイライン鴨が辻でバス下車、地域開発(行政)の歴史を聞く 11:00 呼松地区を通り、松江地区見学 - 公害対策として集合高煙突で対処しようとした初期の企業対策の解説を聞く - 行政の大気監視測定局(松江)解説。 - コンビナートの工場と住民の住まいの距離的な近さを実感してもらい、環境と病気の関連性について考える。 11:30 公害患者さんのお話 健康被害のこと、公害反対運動のこと 現在の生活の質の維持、改善、今後の要望・期待など 12:00 昼食(希望による)
対象: - 医療系および環境・社会科学系大学関係者など - 地域の環境を担う人材・その育成者など	
ツアーのねらい／効果 - 現場を見て、実際に感じて学んでもらうことを重点にした短時間で学びを凝縮した最短コース(2時間半) - 短時間ではあっても当事者の声を聞くことで、深く考えるきっかけができる。	

◆短時間コースは、外部組織との連携によって、1日コースにすることもできる。

例：NPO 法人倉敷町家トラストとの連携

「環境最先端都市をめざす倉敷ツアー 公害経験と景観をともに学べるまち、倉敷(仮)」

資料5．ツアー紹介ホームページ

デザインについて：未来志向が伝わるように明るいイメージ、イラストや手書き風フォントを使用。しかし軽くなならないよう、内容は十分に伝わるように工夫した。

●ロゴコンセプト

地球から伸びた芽（私たち人間（の眼（目）））が、発見し&気付きます。
これによりどんどん緑（自然）が成長していきます。

●トップページ左側のイラスト

「自然、産業、暮らしが共存しできる未来がきっとできます」というイメージイラスト。
工場と人が暮らす家がすぐ近くにあるけど、青い空と海があり、澄んだ空で太陽が明るく輝き、お魚も元気に泳いでいます。
私たち人間はきっとこんな暮らしが実現できるはず。みんなで一緒に考えましょう。

構成について：ブログ・ツイッター等との連携強化。拡張性確保。

その他：グーグルアナリティクスを活用したSEO対策の実施





MIZUSHIMA PROJECT

環境最先端都市倉敷で環境問題と共生を体験しまちづくりを同時に学ぶ みずしまプロジェクト

[Japanese](#) | [English](#) |

[トップページ](#) | [みずしまプロジェクトについて](#) | [ツアーコース](#) | [お知らせ](#) | [水島って?](#) | [参加者の声](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#)



みずしまプロジェクトについて

[みずしまプロジェクトトップページ](#) > [みずしまプロジェクトについて](#)

水島は岡山県倉敷市にあります。

倉敷市と聞いて何を思い浮かべますか？

白壁の町、江戸時代の街並みが残る美観地区のまち。

もちろん、それらは素晴らしい価値をもっています。

しかしながら、倉敷市には

瀬戸内海に面した美しい港、

春になると言葉通り一面桃色になる桃畑の広がるまちもあります。

そして、水島には、巨大なコンビナート地帯があります。

日本の産業発展を担い、高度経済成長を推し進めた工業地帯。

だけれども、その陰には

公害により健康な体を奪われた人、

快適な生活環境を失った人

そういった被害も発生しているのです。

国の制度で認定された公害患者さんは

水島地域だけで4000人近くも発生しました。

今もなお、呼吸器の病気に苦しむ方はいらっしゃいます。

なぜ、こんな甚大な公害が発生したのか？

同じような被害を二度と起こさないためにはどうしたらいいのか？

より良い環境にするにはどうしたらいいのか？

そんな思いで、私たちみずしま財団は活動を続けてきました。

その中で、

市民、企業、行政がつながり

さまざまな発見や新しい価値の創造の場面に出会ってきました。

これは、同じような公害地域にも

これから、開発がすすみ被害がでるかもしれない地域にも

なにかのヒントになるのではないかと

ぜひ知ってもらいたい。

と考えるようになりました。

この「みずしまプロジェクト」は

「みずしまの過去を活かして

ずっと環境のよい

しあわせな

まちづくりを目指して」を合言葉に

水島の経験を活かして、世界中から公害のない

皆が健康に幸せに暮らせるようにしていこうという試みです。

そのために

水島の経験、それは、つらい過去も、いま行われている再生も

将来の姿もすべて含めて、お伝えしていくことから始めるのだと思います。

公害患者さんは言います。

「こんな苦しい思いをするのは、自分たちで充分。

子や孫にはこんな思いをさせたくない。

公害のないまちに、子や孫のためにしてかなくては」





MIZUSHIMA PROJECT

環境最先端部小倉敷で環境問題と町並み景観をまちづくりを同時に学ぶ みずしまプロジェクト

| Japanese | English |

[トップページ](#)
[みずしまプロジェクトについて](#)
[ツアーコース](#)
[お知らせ](#)
[水島って?](#)
[参加者の声](#)
[お問い合わせ](#)
[サイトマップ](#)

ツアーコース

みずしまプロジェクトトップページ > ツアーコース > 水島を知るツアー

水島を知るツアー

Point! このツアーのポイント

1. 現地に行って自分の目で見ることを重視しています。
2. その上で「どういう意味を持っているのか」等、専門的な解説でご案内します。

Intention! このツアーの目的

ツアーをきっかけに自分の暮らし方や、住んでいるまちの環境を見直すきっかけになります。さらに水島の経験から環境コミュニケーションの重要性を理解し、各主体が連携して環境問題へ取り組み、まちづくりを行うという行動変容をうながすことが期待できます。



half day Course No. M-A

水島を知る

one day Course No. M-B

水島と含羞をめぐる

one day Course No. M-C

環境と医療のつながりを学ぶ

⇒団体でのお申し込み・料金(※準備中)

⇒個人で参加したい方は、1人から参加できる「個人向けツアー」を開催しています。ブログやツイッター(mizushimaPJ)で随時お知らせしますので、ぜひチェックしてください。

half day Course No. M-A

水島を知る

●テーマ

水島を知る

●所要時間 約4時間

●コース詳細

場所	内容	備考
JR倉敷駅 水島臨海鉄道水島駅	集合	
鴨が辻(築山山)	地域開発の歴史に関するレクチャー	
コンビナート工場	工場見学(環境対策・技術等)	本日の場合コンビナートに隣接する地区を歩く
JR倉敷駅 水島臨海鉄道水島駅	公害被害者の声を聞く 施設解散	大気汚染による被害とは何か

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

one day Course No. M-B

水島と含羞をめぐる

●テーマ

環境最先端部市をめざす 倉敷ツアー 公害経験と景観をあわせて学べるまち倉敷

●所要時間 約7時間

●コース詳細

場所	内容	備考
JR倉敷駅 鴨が辻(築山山)	集合 地域開発の歴史に関するレクチャー	
コンビナート工場	工場見学(環境対策・技術等)	本日の場合コンビナートに隣接する地区を歩く
美観地区周辺 倉敷市まちづくり事務所	集合 NPO法人倉敷市まちづくりの取組についての説明と見学	【暮らしになる】
美観地区 JR倉敷駅	現地解散・施設解散	

one day Course No. M-C

環境と医療のつながりを学ぶ

●テーマ

環境と公害のつながりを学ぶ

●所要時間 約4時間

●コース詳細

場所	内容	備考
JR倉敷駅 水島臨海鉄道水島駅	集合	
鴨が辻(築山山)	地域開発の歴史に関するレクチャー	
コンビナート工場	工場見学(環境対策・技術等)	本日の場合コンビナートに隣接する地区を歩く
美観地区周辺	集合	
	公害被害者の声を聞く 地域医療に親しみ、住民とともに歩む医師のお話	大気汚染による被害とは何か
JR倉敷駅 水島臨海鉄道水島駅	施設解散	

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺



みずしま財団
環境水島地産環境開発有限

〒710-0000 岡山県倉敷市東区南町1-1-1
TEL:086-442-0100 FAX:086-442-0101 E:info@mizushima-jidai.co.jp

©2015 環境水島地産環境開発有限
岡山県倉敷市東区南町1-1-1

資料6．モデルツアー実証調査

1．環境・社会学習視察実体験モデルツアー開催概要

(1) 目的

大学・企業・団体等の研修企画担当者にモデルツアー「技術と暮らしと、私と未来」を体験してもらい、水島での学びの有効性を理解してもらうことを目的とする。

(2) ツアーのねらい

今回のプログラムは、NPO 法人倉敷町家トラストとの連携で行う。当事者の声を直接聞く体験を通じて、持続可能な社会のあり方を深く考える内容とする。

ツアー参加者には、大規模な工場とその足元の住民の暮らしの対比、工場の環境技術と昔ながらの暮らしの対比、コンビナートのまちと昔ながらのまちのつくり方の対比、3つの対比を体感してもらう。

(3) 期待される効果

ツアーをきっかけに自分の暮らし方や、住んでいるまちの環境を見直す機会となる。さらに水島の経験から環境コミュニケーションの重要性を理解し、立場を越えて環境をまもり、育てるという行動変容をうながすことが期待できる。そのことを自らが体験し、地域の環境を担う人材を育成する実習・研修に水島が有効と認識してもらう。

(4) 検証課題、仮説

仮説

- ・ 研修・実習の企画担当者が、実際に現地をみることによって、水島での学びの有効性を実感してもらうことができれば、次の研修受け入れにつなぐことができる。



団体向け研修につなぐために、魅力ある個人向けのツアー呼びかけ（募集型企画旅行）

- ・ バス代が安いオフシーズン
- ・ 大学関係者が次年度企画を検討する時期
- ・ 定期的な開催（2月、8月、11月下旬）※開催月は要検討

課題

大学内で研修費用が予算化されていない年度の研修受け入れは、無料対応せざるを得ない。その場合の対応。

(5) 行程

行程	担当
8:30 みずしま財団スタッフ集合 9:00 JR倉敷駅集合 バス乗車 9:05～バス移動 	受付代金徴収 (藤原) あいさつ・講師紹介: 藤原 ツアー概要説明と注意点: 藤原 地域開発 (塩飽) コンビナートの全国的位置づけ (古川氏) 企業間連携 (古川氏)
9:30 ～9:45 鴨が辻  9:45～10:00 バス移動	見学 30 分、説明 30 分 総務グループ岩永氏 松江の集合高煙突解説 (塩飽)
10:00～11:00 J X日鉱日石エネルギー水島製油所見学 環境対策・技術等 11:00～11:20 バス移動 11:20～12:10 公害患者さん のお話を聞 く 12:10～12:30 バス移動 12:30～13:30 昼食 13:30～13:40 徒歩にて移動 13:40～15:30 倉敷町家トラスト 15:30～16:00 ふりかえり  	患者会 (太田、田中、大田) 中村泰典氏

(6) 参加者の声、反応

※アンケート回答結果

(7) 実証結果、抽出課題

- 学びの有効性については理解いただくことができた。
- 4 日のモデルツアーに参加した方が次の研修受け入れとして 8 月の視察申込みがあり 1 人、1 人の先生が学生を連れてくることを検討してくれた。
-

(8) 改善方針

- 無料対応せざるを得ない場合の申込みがあった場合は、1 回目は受け、2 回目以降は有料に協力してもらう。

2. モデルツアー案内チラシ

現場で現実に行き起きていることを 間近にみる 感じる 考える

岡山県

倉敷市水島での学びを実習・研修の一環に加えてみませんか？

みずしま財団(水島地域環境再生財団)では、大学・各種研究機関・企業等の視察受け入れを行っています。

環境等の専門研究員がツアーガイドを務め、効率的に専門的な視察を行うことができるので、限られた時間の
中で多くの成果を得ることができると好評です。

視察受け入れの実績が多数あるため、目的・時間・予算に合わせたツアープランのご提案が可能です。

実際に視察に来られた先生方は

「現地での生々しい風景や状況がインパクトがあり、留学生・学生にとって強く印象に残る学びになった。」(西條国際大学/中村賢二先生)

「日本の高度経済成長の光と影を象徴する場が水島であり、避けて通れない。」(岡山大学/キム・ドンギョル先生)

学生、留学生の方は

「岡山に住んでいるのに、水島の公害について知らなかったことがはげしかった。」(環境計画学/学生)

「民家と工業地帯の距離の近さに驚いた。」(社会経済学/学生)

「経済発展は大切です。でも環境は人類生存のもとです。」(環境計画学/中国留学生)

と感想を述べられています。

しかしながら、実際の学習の一環に採用となると、
具体的にどのような内容でどのような成果が得られ
るかご自身で体験の上、検討したいと思われるのが
当然だと思います。

そのため今回、研修企画で担当者向けモデルツアー
をご用意いたしました。ご自身で体験の上、「水島
での学び」の有効性を検証し、研修導入を、ぜひ検討
ください。



みずしま財団
担当：藤原園子

※写真には関係ありません。写真の著作権は、みずしま財団にあります。

百聞は一見に
如かず！

環境・社会学習 実体験環境モデルツアー「倉敷・水島」 ～技術と暮らしと、私と未来～

最先端の技術を誇るコンビナートがあるまち「水島」と、「美観地区」の旧家の
暮らしを学ぶモデルツアーです。コンビナートが建設される前から住み継い
できた旧家の暮らし。そこに暮らす思いを聞きます。今も旧家の町で暮らす
公害被害者の話を聞いて、持続可能な社会を考える。未来の町 型ツアー
です。

■日程：2011年2月4日(金)

■代金：9,800円

■行程

8:00 JR倉敷駅

10:00～12:00 水島視察

コンビナートと住民の暮らし

12:30～13:30 昼食

13:30～15:30 倉敷市立ラスト再生物件見学(まちに)をとおす(町)をとおす

ぐらしせになる暮らしなおし(倉敷NPO協会の活動)

16:00 倉敷美観地区(旧倉敷駅)まで10分(徒歩)



お問合せ・資料請求

みずしま財団 担当：藤原園子 TEL:086-440-0121 FAX:086-446-4620

e-mail: webmaster@mizushima-f.or.jp Web Site: http://www.mizushima-f.or.jp/

〒713-0034 岡山県倉敷市水島南町 1-3-23

3. モデルツアー詳細・申込書

(1) 表面



みずしま財団

環境・社会学習 実体験視察モデル・ツアー
水島・倉敷/日帰りバスツアー

技術と暮らしと、私と未来

最先端の技術を誇るコンビナートがあるまち「水島」と、「美観地区」の町家の暮らしをたずねるバスツアー。

コンビナートが建設される前から住み継いできた町家の暮らし。そこに暮らす思いを聞きます。
今も呼吸器の病気で苦しむ公害被害者さんのお話を通じて、課題可能な社会を考える、未来志向型ツアーです。

平成23年
ご旅行日 2月4日(金)

9:00集合/9:05出発
集合: JR倉敷駅西ビル横
貸切バスにご乗車いただきます。

9:30-9:45
鴨ヶ辻で地域開発の歴史に関するレクチャー

10:00-11:00
コンビナート工場見学:環境対策・技術等

11:00-12:00
公害被害者の声を聞く:大気汚染による被害とは何か
バスで倉敷美観地区周辺へ移動

12:30-13:30
昼食:くらしきの宿 東町
徒歩でNPO法人倉敷町屋トラスト事務所へ移動

13:40-15:30
講師レクチャー〜「く・ら・し・きになる暮らしなおし」
「まちに灯をともす」とりくみ
〜再生物件見学・まち歩きなど

15:30-16:00
NPO法人倉敷町屋トラスト事務所:総括
町屋コミュニケーションとは何か? 過去の歴史から学び、未来志向で考える。

16:10頃
JR倉敷駅/着後解散



鴨ヶ辻は江戸時代から倉敷の中心地を形成し、発展を続けるまち。



NPO倉敷町家トラスト

みずしま財団

〒712-8024
倉敷市水島5-20-13-23
TEL:086-440-0121
FAX:086-440-4620
e-mail:mizushima@npo-mizushima.co.jp
Web Site:http://www.mizushima.co.jp/

全行程にご関心をお持ちの先
お問い合わせ先

¥9,800

ご旅行代金 大人お一人様

上記料金にはバス代、昼食代、ガイド代、保険料が含まれます。

●日帰り 食事付・解説員同行

募集定員: 30名 (最少催行人員10名) / 申し込み締切日: 1月21日(金)

※ただし、定員になり次第締め切らせて頂きます。

取消料	旅行開始前14日以上	旅行開始前14日以内	旅行開始前7日以内	旅行開始前3日以内	旅行開始前1日以内
取消料	0円	4,000円	3,000円	2,000円	0円

よりフレンドリーに あなたの旅 応援します 旅のデパート JTBC総合提携店

旅行企画・実施 全観トラベルネットワーク 児島支店 団体営業本部

〒713-0921 倉敷市児島駅前1-10-1 ナイカイ第1ビル1階 営業時間: 午前10時〜午後7時 受付日: 毎週水曜日・日曜日
団体本部直連 ☎(086)472-0005 団体本部FAX ☎(086)472-2552

本社 岡山県倉敷市北町1丁目11-47 TEL(086)450-0005 岡山県倉敷市北町2丁目1-1 岡山県倉敷市北町2丁目1-1 岡山県倉敷市北町2丁目1-1

[illegible]

(1) アンケート調査票

このたびはツアーにご参加下さり、ありがとうございました。

- ・ 新聞報道をみた
- ・ H P ・ブログ・メーリングリストなどから情報を得た
- ・ 事務局から連絡があった
- ・ 友人・知人に聞いた
- ・ 職場・自宅にチラシ案内が送られてきた
- ・ その他（ ）

※裏面につづきます

質問6) 研修・実習についてお尋ねします。

①地域で環境保全・再生、まちづくりを担う方々や、学生・留学生ための研修としては、今回のツアーは有効だと思いますか？

- ・ そう思う
- ・ もう少し工夫すれば有効（工夫すべき点 _____）
- ・ わからない

②企業のCSRや、環境コミュニケーションを考えるための企業向けの研修としては、有効だと思いますか？

- ・ そう思う
- ・ もう少し工夫すれば有効（工夫すべき点 _____）
- ・ わからない

質問7) 配付資料についてお尋ねします。ツアー開催にあたって資料の必要を感じますか？

- (1) 資料集
 - ・ 必要だと思う
 - ・ 減らしても良いと思う
 - ・ 全くいらないと思う
- (2) 写真集「みずしま」
 - ・ あるとよい
 - ・ なくてもいい
- (3) こんな資料があるといいなと思うもの（→ _____）

質問8) 本日のツアー代金 9,800 円（バス代、昼食代、ガイド代、講師謝金含む）についてお尋ねします。価格設定はいかがでしたか？いずれかに○をしてください。

- ・ 高かった。（理由 _____） →（妥当金額 _____ 円）
- ・ 適正だった。（理由 _____）
- ・ 安かった。（理由 _____） →（妥当金額 _____ 円）

質問8) その他、なにかお気づきのことがあれば、ご自由に記載下さい。

※ 上記のお声について、お願いがあります。インターネットや印刷物に掲載させていただいてもよろしいでしょうか？

() 名前を出しても良い () イニシャルなら出しても良い

お名前

ご協力本当にありがとうございました。財団法人 水島地域環境再生財団

(2) アンケート回答結果

参加者 21 名 (男性 12 名 / 女性 9 (留学生 5) 名)

* ツアー申込み 16 名

大学関係者 3 名

地元企業 2 名 (エネルギー 1 名、建築 1 名)

団体職員 7 名 (環境系 6 名、医療系 1 名)

主婦・一般 2 名

行政 2 名 (環境 1 名、観光 1 名)

* 留学生 5 名

質問 1 何がきっかけで、今回のツアーを知りましたか？

新聞報道をみた	2
HP・ブログ・ML から情報	1
事務局から連絡を受けた	6
友人・知人に聞いた	3※ (内 1 名は HP・ブログ・ML も)
職場・自宅に、チラシ届く	3
その他 (先生から)	4

質問 2 何が決め手となって、今回参加しようと思いましたか？

みずしまの暮らしの色々なことを知ることができると思ったから
「公害」というエコツアーにはあまりない設定
公害患者さん達の声聞く企画と工業見学
倉敷の町家トラストの話
同僚に誘われて
質問一の方の答えの方のすすめ (友人・知人のすすめがあったことが決めてとなった)
タイトル (技術と暮らしと、私と未来)
委員であったため
町家トラストの話を聞けること
公害の問題、大気汚染のことに興味あった
先生の薦めだから参加した。
日本のことをもっと知りたい。水島コンビナートを見学したい。色々な人々と交流したいからです。
社会勉強できると思うからです。
JX の設備 (脱硫など) が見学できる。しかも、お昼がついている!!
水島の公害問題と町家再成に関心があったから
可能な限り参加したい。
倉敷の環境と文化をもっと知りたいからです。

質問3 本日のプログラムはいかがでしたか？

(1) 工場見学 (JX 日鉱日石エネルギー製油所)

製油所というのはできあがる物を見ることができるわけではないので仕方ないが、担当の池永さんのお話はおもしろくためになった。
普段なかなか見れない景色が見れました。
無難
「国からの補助」を受けて発展し、日本一の製油能力を持った会社。利潤が第一にはなと思うし、技術の面でも最先端ということでそれだけになってしまいがちだと思うが、何よりも地域の中に会社があることが前提だと思うので、バランスを欠いてほしくないし、もっと努力して欲しいと改めて思った。
初めて見ました。見て良かったです。
説明してもらった内容を絞った方が良くないかなと思いました。
JXの方のだんどうが・・・
良い事ばかりで過去の公害問題も正面から真摯に受けとめる企業であって欲しい
もうすこしインパクトが必要
10年後、20年後のコンビナートはどうなっているのか？長期展望の話も聞けると良かったです
日頃外から見ていたのですが、実際説明を伺い中から見学できてよかった
初めて、JX 日鉱日石エネルギー製油所に見学して、とても嬉しかったです。係員さんは詳しく説明してくれて、学校以外の知識を学びました。
以前は見ることがないですが、とてもいいと思います。
自分の国ではない、工場で見学して色々な知識を得ました。
良かったです。
普段見ることのできない施設を見学できて良かったです。
会社全体の環境方針や、環境マネジメントと合わせて詳しい説明が聞きたかったです。
もう少し詳しく見たかった。残念！
文明の中の負の部分をとて重く感じました。
そのような工場は初めて見たから、立派だと思います。

(2) 公害患者さんのお話

直接語っていただくということはとても心に響くものであり、患者さんにとって大変だ と思うが大切な活動だと思った。
ありがとうございました。
とても心を動かされる内容であり、価値の高いものであった。
初めての体験でした。いつも割と近くに折られる方々に改めて話をうかがって、人が 地域で安心して暮らせるということはどういうことなのか、思いをめぐらせた
初めて聞きました。聞くことができて良かった、です。
今では現実感に乏しい産業公害ですが (実際はありますけど) まだまだ苦しまれて いる人々がいることを実感させられました
病状のつらさがメインになりすぎていて少し痛かった。
生々しい
初めての経験で良かった
患ったものでなければ分からない苦しみ。「住民の思いと行動の力」の重要性、・「き れいな空気を取り戻す」という強い思い」を強く感じた
直接患者さんの話を聞くのは初めてで、良い体験になりました。
今も尚、苦しんでいる現実。一日も早く空気のきれいなまちになるように私も共感 した。
直接に公害患者に接触して、公害患者さんから病気の話を聞いて、なんか悲しい 感じがします。生活がよくなっているけど、健康はもっと大切です。
人生を放棄しないように、頑張って生きてください。
けむりのよくないことを知りました。公害患者さんお話を聞いてかなしい感じがした
心から痛みを感じます。
何度か拝聴しているが、いつも考えさせられるばかりです。
患者と企業のこれから関わり、つながりについて。 よりよい仕組みができていくことを願っています。
断片的にしか知らなかったもので、もう少し詳しく勉強したいと思った。生の声が聞け たのは貴重だった。
文明の中の負の部分をととても重く感じました。
かなしんで、自分ももっと何かやりたいなと思って、環境はみんなと一緒に守るは ずです。

(3) NP0 法人倉敷町家トラスト

中村さんの解説があつてこそ、わが街のことがわかり、新しい倉敷を発見した気がす る。
倉敷美観地区は来たことがあったのですが、今日歩いたところは初めての通りば かりで、とってもお得感がありました。
ガイドされる方の話が上手であり、今回のテーマに沿ったストーリーがきちんと位置 づけられている内容であった

「昔ながら」という「昔」にも色々な経緯があって今があると思う。個人的にはつじつまはあってなくてもそれでいいと思うし、変化していて然りだと思う。ただ「継続可能」というシステムはいったんこわして記憶からなくなってしまうともともどらない。しかし、きらびやかに見える「夢」の前に、かんたんに削れてしまうものだとも思う。自分の生き方も含めていろんなことを考えたまちあるきだった。
初めて話を聞きました。おもしろかったです。
長い時間をかけて造られた街が、産業の発展、生活レベルの向上とともに忘れ去られてしまいましたが、再生されつつある町家を見ると、何か暖かいなつかしい思いがしました
視点が違うと話もちがい楽しかった。
地道な活動を今後も継続してもらいたい
新しい見方を経験出来た
昔と今のコントラストの説明が興味深い、街の新しい見方を体験できた
本当にまちが変わって来ているのが印象的でした。それを解説付きで見られて良かったです。
日頃見ることのできないまち、家を説明を聞きながら見学できてよかった
古い町で、美しいです。ずっと残っていけば良かったと思います。
ハウスがきれいですが、不便です。(トイレ、お風呂ない)
おもしろくて楽しかった。
患者の方の将来の思い
住み手の思い、住み継ぐことの意味をあらためて認識しました。
一昨年は大原美術館周辺しか見ていなかったのも、違った町家の形が見られて良かった。江戸、明治、昭和が混在しているところも興味深かった。
はじめてみせものでない部分を知りました。
そのような家を立っていると、ほっとした感じがあります。

質問4 特に印象に残ったのは、どのようなことでしたか？

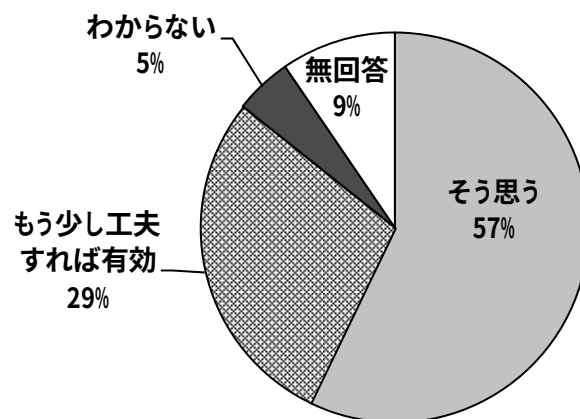
町家トラストの活動。次は宿泊で来たいと思いました。
何となく倉敷の歴史や人々の生活が繋がって見える気がした
「ぼうしや」と「そばや」是非行ってみたいです!!
水島の公害の現状……。
一度失われたものの再生の難しさ
(1) 工場見学のはずでしたが、いろいろ考えさせられたのは(2) 公害患者さんの話でした。
「技術と暮らしと、私と未来」スケールの大きなテーマ
倉敷のメインストリートでは無く、裏街道から見る街並み
公害患者さんとの面会が印象的であった
美観地区で新しい発見があった
今も苦しんでいる患者さんの姿

今日の工場見学と公害患者さんのお話は印象に残りました。めずらしい経験しました。いろんなことを肌で感じました。
製油所はとても壮観でりっぱです。
環境問題について活動している人々にあこがれました。
どちらも印象が残っています。工場内に見学でき、普通目にみえないものを見られた。公害患者さんの話もきかれます。
まちのあり方、まちに住むことに向き合っている方々（水島も、倉敷も）
町家の本来の姿が見られたこと
中村さんの熱い心
やっぱり公害患者さんのお話です。地球のために、子孫のために、一緒に環境を守ろうと思います。

質問5 今日のプログラムの中で、「もう少し聞いてみたい」、「ここはわからない」と思うことがありましたら、ご記入下さい。

患者さんのお話は、時間もなかったし、3人おられたのでちょっとあわただしい感じはしました。もったいないかなと思いました。
もう少し全体としてのストーリーや一貫性がはっきりと見える構成であってほしかった。自然観察会のやり方からは脱却してください。
倉敷の町家の保存の現状
質問(3)ー(2)でコンビナート企業側での病気の発症者は目立っていなかったの？裏話が聞きたかった。
広江の企業団地はJFE団地ではなく三菱化学の企業団地です。JFEの広江団地はすでに撤去済みです
私は外国人なので、偶には（細かくは）日本語は分かりません。でも今日のプログラムはすばらしいと思います。
水島の生い立ち、成り立ちとこれからについて
水島の工場
工場見学のところではいっぱい専門的な言葉を使っていたからもっと知りたいです。

質問6 ①研修・実習についてお尋ねします。今回のプログラムは有効だと思いますか？

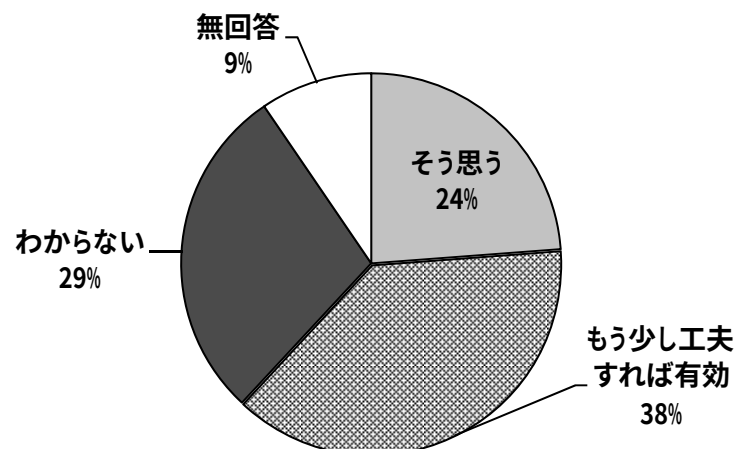


アイデアはともかく完成度が低い

「暮らし」という観点で言えば、農地のことについての要素があった方がいいと思う
若者向けと思う

企業の CSR の考え方、意識について聞きたかった

②研修・実習についてお尋ねします。今回のプログラムは有効だと思いますか？



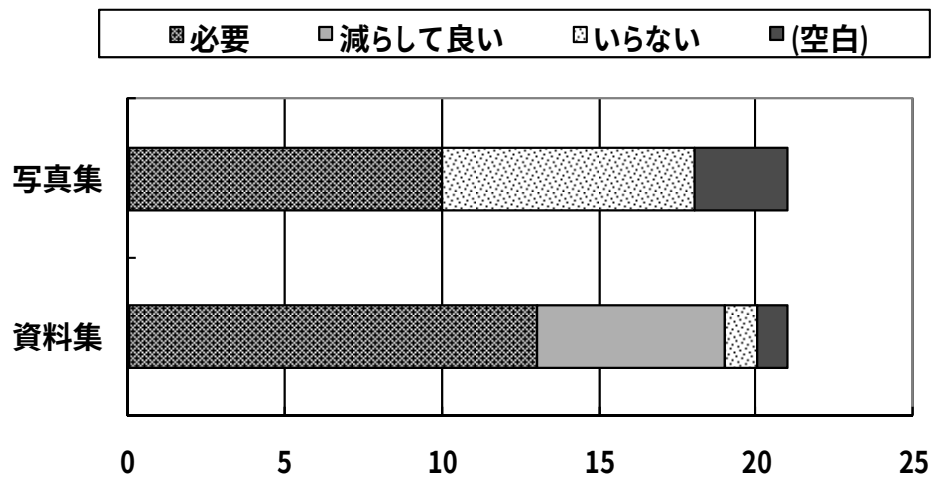
一冊のファイルとして持って帰れる工夫

企業の視察内容

今日のそれぞれの場で客層 (ターゲット) 年齢層がちがうように思うので、そのあたりのつめ

時間をかけて詳しく

質問7 配布資料についてお尋ねします。ツアーにあたって、資料の必要性を感じますか？



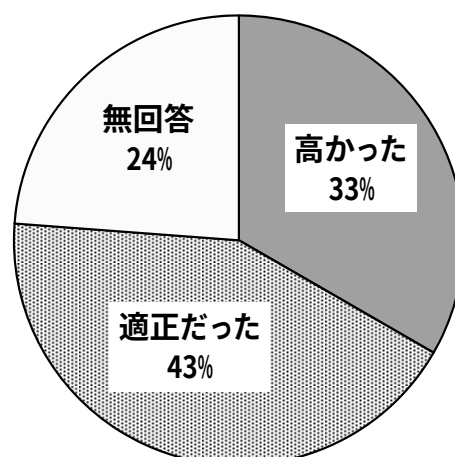
写真集に関して

買ってもらうと良いと思う
 売ったほうがいい
 公害の歴史がよくわかってよい
 必要な方だけでも良かったと思う

あったらよいと思う資料

本日のコース地図
 もっとデータを!!全体の分量も少ない
 エコバック(スミマセン)

質問8 本日のツアー代金9,800円(バス代、昼食代、ガイド代、講師謝金)について



適正だったという理由

正直安いと思う。しかしきっかけとしては良い値頃だと思う。観光的なニュアンスなら昼食をアピールして、もう少し値を上げることも可能だが
自分自身楽しめたから
写真集、食事代を含むので
患者の声、町並みだけでも価値があると思う
金額としてパッと出せる額として程良い。実際に参加して中身の濃い、充実したものでしたのでとてもお得でした!!
いつも見られない点が見られた
中味が充実していた。

高かったという理由

資料不足、ガイドの能力
ねだんで参加をしばらくされる人もいるのでは?!
内容は充分にあるのだけど参加しやすいかなと思う金額として八千円 (あまり根拠はありません)
一般人とすれば、有料感覚はバス、食事なので
日帰りツアーとしては高い
日帰りスタートとしては一般的に高いと考える。観光シーズン中の参観人員によって仕方ないかも知れませんが
広報くらしきの産業観光バスツアーに比べると少々高かったかな? 今後どのくらいの頻度でされるのか? 昼食を少し低くしても 5,000 円くらいがよいと思う。参加しやすい。

妥当と思う価格

6,500 円 7,500 円 8,000 円 5,800 円 or 6,800 円 5,000 円 5,000 円

質問 9 その他お気づきの点があれば、自由に記載下さい。

昼食の説明があったらよかったかなと思います。それが地元の食材を使った食事にするなどおもしろいと思いました。最後に質疑応答の時間はもっとあったらいいと思いました。全体を通して質問したいことがあるので。
各地でいろんなツアーが開催されています。ぜひ参加して研究して下さい。
とても楽しかったです。ありがとうございました!!
カメラ撮影が激しい(メディアの方?) のが気になった
西ビル (集合場所) がわからなかった。
昼食の時、自己紹介タイムが有るという事で、どんな立場のかたが出席されているのか知り合いたかった。また、共感できる方とそのジャンルの話がしたかった。
ターゲットをどの年齢層とするかで内容を変える必要があるのではないかと。エコツアーにして下さい。
①全体の行程がつめこみすぎた (個々の時間が短かった) 1泊2日間分ですね。 ② (移動しながらの案内なので難しいですが) 全体から細部へとか (全体図や詳細図の提示)、軸を入れるとか (過去から現在、未来へ) すると、理解しやすかったと思います。

資料7．水島視察参加者へのアンケート調査

1．吉備国際大学アンケート

(1) 調査票

吉備国際大学の学外実習（2010年11月17日） 水島

… 受講生アンケート …

今日は水島に来てくださり、ありがとうございました。

今後の参考にしたいと思いますので、感想をお聞かせ下さい。

1. 水島を実際にみて、話を聞いて、気がついたこと、感じたことは何ですか？

2. 公害患者さんの話を聞いて、印象に残ったのはどのようなことですか？

3. 今後も、地域で学ぶ機会があると、よいと思いますか？

より多くあると良いと思う ・ 授業の中であれば参加する ・ わからない

4. あなたは、この授業を受ける前(事前学習も含めて)に、日本の公害について知っていましたか？ いずれかに○をしてください。

- ↓
- { (1) 知っていた
(2) 言葉は聞いたことはあったが、内容は知らなかった
(3) 全く知らなかった

5. (1)、(2)とお答えの方は、どの地域の公害を聞いたことがありますか？
聞いたことがあるものに○をしてください。

足尾銅山 ・ 水俣病 ・ 新潟水俣病 ・ イタイイタイ病

四日市ぜんそく

大気汚染（ 東京・千葉・川崎・名古屋・大阪・尼崎・倉敷市水島 ）

その他（ ）

6. 倉敷市水島に大気汚染公害があったことを知っていましたか？

知っていた ・ 知らなかった



7. 「知っていた」とお答えの方は、どのように知りましたか？

友人/知人に聞いた ・ 学校で習った ・ 新聞やニュースで知った
その他 ()

8. これまでに水島に来たことがありますか？

ある () 回目 ・ ない

**9. 今日、水島で、地域を見て、話を聞いて、印象に残ったことはどのようなことですか？
当てはまるものすべてに○をしてください。**

- (1) コンビナートの規模の大きさ
- (2) 工場と人々がすむ町の距離
- (3) 公害患者さんに直接話が聞けたこと
- (4) 被害に苦しむ患者さんにとって、公害は未だ終わっていないということ
- (5) 環境を守るのは企業・行政・住民みんなが取り組まなくてはならないこと
- (6) その他 ()

ありがとうございました。

お名前 ()

(2) 調査結果

日時：2010 年 11 月 17 日 吉備国大大学環境管理学科 10:00～12:00

参加者：学生 41 名、教員 2 名

質問1. 水島を実際に見て、話を聞いて、気がついたこと、感じたことは何ですか？ (すべて原文のまま)	
公害はまだ終わっていないということを気が付いた。工場の近くに住宅地はまだあります。	留学生
水島の工場が非常に多いです。さらに工場はすむ町の距離が問題となっている。	留学生
日本の工業区の周辺の環境がとてもいいだと思います。保護施設もよかった。	留学生
とても印象を残るのは水島の煙です。最初の水島の観光台に見る時、空の雲は私にすごくびっくりした。空は雲に分けられていました。	留学生
工場がおおいです。空気がよくないです。	留学生
環境することがとても大切だと思う。みんな協力して環境をまもる。	留学生
工場の周辺の植物葉きれいじゃない。葉の上に黒い物をいっぱいある。工場の周囲に、空気のおいぐざいと思います。工場と家が近いから人々と影響が大きい。	留学生
公害原因:地形、山に囲まれ煙がたまつたため。自然公園がコンビナート周囲に、工場からの被害をふせぐため、効果があるかは分からない。かつて漁師は、今は一人。コンビナート建設:強制立ち退きがあったらしい。高く建てさせた煙突:地形により、役立ちはせず。	日本学生
山に囲まれているので、煙が他の所へでていかない。・環境のために煙とつの色をかえてある。赤と白。(飛行機)・民家が向上に囲まれている。	留学生
水島に昔の公害問題は想像以上に厳しいと思います。	留学生
感じたことは改めて怖いし、嫌だなと思いました。公害は怖いと思いました。公害によって病気になったり生活に支障が出るのは嫌だし、怖いと思いました。	留学生
大気汚染は酷いです。工場はたくさんありますので、排気量が多いんですから。道路の両方の植物はあまり成長できないのを見てきました。確かに住民は工場に近いすぎだと思います。	留学生

すごく大きな工場を見て工場区の環境問題をよく年教下	留学生
雲は鉛色だ。煙が多い工場と住民の距離が近い。	留学生
水島は、人々の生活を犠牲にして成り立っているんだなあとと思った。 岡山に住んでいるのに、水島の公害について知らなかったことがはずかしかった。	日本学生
①煙突が多いです。②古い道、超狭い。③雲が多い。④工場の周り家が多い。 ⑤工場の規模が大きい	留学生
コンビナートの規模の大きさにびっくりしました。水島は山に囲まれています。排煙は外に出られない。下に沈んだ。人間は呼吸を通じて病気になりました。	留学生
水島が自分思うより環境、空気など悪かったです。工場がたくさんあるので、外に出ている。バスに行く時、空気の悪さあまり感じてない。高粱に戻るとき、痒くて、太陽の光が眩しくない、本当に空気が悪いと思いました。	留学生
実際は水島に行ったら、まずたくさん工場が見える。そして、大きい煙突が見える。環境に取って大変なことだと思います。空は高粱より空が曇っている。空気がきれいじゃないと感じます。	留学生
水島を実際に見たら、あそこの工場はいっぱいある。工場の煙突が林立する。煙を吹きだしています。先生の話の聞いたら、経済発展は大切です。でもそのうえ環境は人類生存のもとです。	留学生
環境破壊がすごく深刻です。公害患者も多かったです。	留学生
水島はきれいです。工場は大きいです。でも汚染がひどいですね。	留学生
工場たくさん建てるで、なぜ海に近く建てるのかわからない。 工場の近くに池の中に水を汚染されたのに、さかなまた生きている。山の上に水島を見るところはごみがちょっと多く感じがある。	留学生
水島は美しな市です。	留学生
呼吸の病気になりました。水島にいろいろな工場があるので、空気を汚染しました。	留学生
今回の患者たちは 29 年前、風邪からなかなか治さないです。この病気は苦しんでいる人はまたたくさんある。心配しています。	留学生
何で水島でたくさん工場を建てますか。 水島の病気がなった公害患者は何でまだ住んでいますか。 今の水島の空気は私の考えよりきれいです。	留学生
水島には三菱化学とか、中国電力とか、いろいろな工場あるので、廃棄な気体や水の排出もしかたがないと思います。 でも汚染の程度は中国より弱いと思います。	留学生

患者さんに聞いて、昔は本当にすごく厳しかった。汚染でたくさんの人は病気になってしまった。4人で3人の患者さん。風邪をひきそうだと思います。風のほうも十分しないと思っています。気がついたことはそんな悪いところがなぜそこに住むのか、なぜ引っ越さないの、そういうことです。	留学生
初めて見ましたが、割と工場地帯だった。大量の原材料の輸入及び製品の出荷。	日本学生
水島はきれいですけど、汚染がひどいと思います。	留学生
公害病はつらいことだと思いました。	日本学生
水島は本当にきれいな町だと思います。でも水島の工場の多さは驚いたです。水島の公害患者さんはすごくしているとしっかり感じていた。	留学生
工場と家が近いから、人々と影響が大きい。工場の規模が大きい。煙突は160メートルがある。水島に中学が二つもある。若者と悪い成長環境だと思う。	留学生
水島の大気汚染、水汚染はとてもおおいと思います。中国電力発電所とかほかの会社とか有害の気体はいっぱい出ました。とても大変です。	留学生
コンビナートの大きさが大きかった。山に囲まれてるうえ、工場と家の距離は近く煙が外にもれないので大変だと思いました。川や海をつぶして家をつくっていたというのはびっくりした。	日本学生

2. 岡山大学アンケート

(1) 調査票

(2010 年 12 月 3 日) 岡山大学

… 受講生アンケート …

今日は水島に来てくださり、ありがとうございました。

今後の参考にしたいと思いますので、感想をお聞かせ下さい。

1. 水島を実際にみて、話を聞いて、気がついたこと、感じたことは何ですか？

2. 公害患者さんの話を聞いて、印象に残ったのはどのようなことですか？

3. 今後も、地域で学ぶ機会があると、よいと思いますか？

より多くあると良いと思う ・ 授業の中であれば参加する ・ わからない

4. あなたは、この授業を受ける前 (事前学習も含めて) に、日本の公害について知っていましたか？ いずれかに○をしてください。

- ↓
- { (1) 知っていた
(2) 言葉は聞いたことはあったが、内容は知らなかった
(3) 全く知らなかった

5. (1)、(2) とお答えの方は、どの地域の公害を聞いたことがありますか？
聞いたことがあるものに○をしてください。

足尾銅山 ・ 水俣病 ・ 新潟水俣病 ・ イタイイタイ病
四日市ぜんそく
大気汚染 (東京 ・ 千葉 ・ 川崎 ・ 名古屋 ・ 大阪 ・ 尼崎 ・ 倉敷市水島)
その他 ()

6. 倉敷市水島に大気汚染公害があったことを知っていましたか？

知っていた ・ 知らなかった



7. 「知っていた」とお答えの方は、どのように知りましたか？

友人/知人に聞いた ・ 学校で習った ・ 新聞やニュースで知った
その他 ()

8. これまでに水島に来たことがありますか？

ある () 回目 ・ ない

9. 今日、水島で、地域を見て、話を聞いて、印象に残ったことはどのようなことですか？当
てはまるものすべてに○をしてください。

- (1) コンビナートの規模の大きさ
- (2) 工場と人々がすむ町の距離
- (3) 公害患者さんに直接話が聞けたこと
- (4) 被害に苦しむ患者さんにとって、公害は未だ終わっていないということ
- (5) 環境を守るのは企業・行政・住民みんなが取り組まなくてはならないこと
- (6) その他 ()

10. あなたは、どのようなご専門・研究をされていますか？

ありがとうございました。

お名前 ()

(2) 調査結果

日時：2010 年 12 月 3 日（金） 10:00～16:30

来訪者：岡山大学 金研究室（環境理工学部） 学生 4 名、教員 1 名

水島を実際に見て、話を聞いて、気がついたこと、感じたことは何ですか？

- ・ 山に登ってみても臭いがあったり、工場の音が聞こえたりと違和感があった。また緑地帯で工場と民家を分けるという話であったが、工場のすぐ近くにも家があり驚いた。
- ・ 民家と工業地帯の距離の無さ（近過ぎ）に驚いた。隣接どころか、混在していた。
- ・ 工業の音やニオイが少し気になりました。大規模な工場のすぐ近くに民家があって、安全性や生活環境は大丈夫なのかと思いました。
- ・ 住んでいる地域にあんな大きい工場地帯が広がっているのは、やっぱり異様というか、少し不気味に感じました。人が住むということと工場地帯が同じ場所にあるというのは無理があると、実際に見て改めて思いました。

公害患者さんの話を聞いて、印象に残ったのはどのようなことですか？

- ・ 今もぜんそくが起きて入院してしまう事もあるということ。裁判に勝つまで、様々な活動をしていたが、反応してもらえず、苦労したということ。
- ・ 息ができない、死んでしまった法が楽だったのではないかと考えた、苦しくて動けない……現在、何もないように、元気そうに見える方々が本当に苦しい思いをしたのだと話を聞いていて涙が出そうになった。また元気そうに見えても、薬で症状を抑制しているだけであって、いつ発作が起きてもおかしくない状況だと知った。その中で自分のことよりも子や孫に残したくない……という気持ちが本当に伝わってきた。
- ・ みなさん公害病に非常に苦しんでいたのだと分かり、胸が張り裂けそうになりました。「こんなことを二度と繰り返してほしくない」という言葉が印象的でした。
- ・ いかにつらいかということ、子供や家族にさみしい思いをさせていたということが聞いていても辛かった。公害はそこに住んでいるだけで発症する病気、絶対に起こしてはいけないと改めて実感しました。

研究分野と、研究をするにあたって、水島の学びの有効性

- ・ 環境管理。はい。
- ・ 環境と人間とのあり方。あった。
- ・ 土地利用計画学。公害の実態がよくわかり、非常に有効でした。
- ・ まだ決まっていますが、土地利用のことです。選択肢が広がるということで聞けて良かったです！！

受け入れ対応への満足度
・ 満足でした。大変お世話になりました。
・ 天気が悪かったのだけが心残り。また展望台に登ってみたい。
・ 満足でした。
・ 実際に色々な所へ連れて行っていただいて、勉強になりました。

地域で学ぶ機会への要望
・ より多くあるとよいと思う 全員

公害認知度
・ 大気汚染については四日市ぜんそくまでしか知らない。ほかの地域にあることを知らない。4人全員 ・ 水島に公害があったこと → 3人知らない 1人知っていた ・ 知っていた人は学校で習った

3. 中四国民医連事務局アンケート

(1) 調査票

(2010 年 12 月 6 日)

中四国民医連事務局

… アンケート …

今日は水島に来てくださり、ありがとうございました。

今後の参考にしたいと思いますので、感想をお聞かせ下さい。

1. これまでに水島に来たことがありますか？

ある () 回目 ・ ない

2. 今回参加して、良かったと思われたことは何ですか？

3. 今回参加して、良くなかったと思われたことがあれば、ご記入下さい。

4. 水島を実際にみて、話を聞いて、気がついたこと、感じたことは何ですか？

5. 今日の案内の中で、「もう少し聞いてみたい」、「ここは解らない」と思うことはあれば、記入下さい。

6. 医療・福祉分野の方々が、水島の経験を学ぶ、今回のようなフィールドワークに参加することで、仕事に生かすことができると思いますか？

とてもそう思う ・ そう思う ・ あまりそう思わない

ありがとうございました。

(2) 調査結果

日時：2010 年 12 月 6 日 15:00～17:00

来訪者：中国・四国地方 民主医療機関連合会 事務局員 20 名

備考：フィールドワーク 事前に 1 時間、住民運動を支えた医師の講演を聴いている。

今回参加して、良かったと思われたことは何ですか？

- ・ 街を歩いて息苦しさをを感じる事ができた。前回 (昨年 11 月) 同じようなツアーに参加したが、歩くコースがなかったのだ。
- ・ フィールドワークで体験による実感できることが多い
- ・ 山の上から見学でき、地図を見ながら説明されたのでわかりやすかった。→
- ・ 工場群と人家が近いのがよくわかった。
- ・ 公害の説明を初めて聞いた。何せ 1 回目は、1971 年。死亡者が出たなど全く知らないでいた。当時小学校の修学旅行でした。時代の先端に行く工業地帯として学習し、出かけました。
- ・ いつも瀬戸大橋から眺めている中にも入り、実際に見て、コンビナートの広さ、スケールを体感できました。
- ・ 公害問題をフィールドワークで体験することにより深く実感することが出来た。
- ・ 公害問題が少し詳しくなった。
- ・ コンビナート内めぐりで実感できたこと。里見先生のお話。
- ・ 初めて、見学しました
- ・ 行政の監視施設の存在など初めて知ったこともあった。
- ・ ゆっくり時間をかけてまわって説明をきけた。

良くなかったと思われたこと

- ・ 時間が足りない。患者さんの話 (昨年 11 月) は患者さんのおもいが聞けたが、今回は聞けなかった。
- ・ 私のホコリアレルギーは、松江地区で下車したら反応したようで、マスクを持って来ればよかったと後悔しました。
- ・ 出来れば患者さんにお会いして生の声を聴きたかった。
- ・ マイクの音量がきこえにくかった

水島を実際に見て、話を聞いて、気がついたこと、感じたことは何ですか？

- ・ 展望台から見たモヤは自然現象なのか、公害によるものなのか、いつもこういう状態だと住んでいる人は大変だ。
- ・ 福山JFEの中を見学した事があり、臭気がひどいのでびっくりしました。
- ・ 全体の地形を紹介してもらって、よくわかった
- ・ 本当に、人家の中にコンビナートが、ズカズカ入り込んでいると感じました。
- ・ どんな病気でどんなふうの治療されているのか知りたい。
- ・ 嫌なにおいがする。
- ・ のどが痛いです

「もう少し聞いてみたい」、「ここは解らない」

- ・ 江戸時代の干拓前から現在の地図による解説が聞きたい。
- ・ 現在も続く健康被害を今後再びたかひに組織することはできるのか？
- ・ 水島臨海鉄道の運営は、第三セクターのようですが、企業はどういう関わりをもっているのでしょうか？
- ・ 松江地区の人が、工場群に囲まれてしまったのは、単に無計画な都市開発があったからなののでしょうか？工場誘致が公害を生む認識がなかったのでしょうか？
- ・ せっかくのバスですから、とりあえず、コンビナート地帯全体を走って欲しかった。住民の方々や、公害患者さんの関係者の方のお話も伺えると実感できた。

その他

- ・ 1970 年、岡大の医療サークルで水島公害の見学バスハイクで遠まきに見学したことを思い出しました。水島協同病院の当時の丸屋先生の話聞き、医療従事者としてあるべきを考えました。本日のように里見先生の話フィールドワークに合わせて考えていくのが良いと思います。
- ・ 塩飽さんが本当に熱心に一生懸命お話いただき、若い方が、この財団を担っている事を強く感じて、敬服いたしました。ガンバレ！！

医療・福祉分野の方々 フィールドワークのメリット

とても 6 そう思う 5 思わない 1

4. 視察団体引率指導者アンケート

このたびは水島に学びに来てくださり、ありがとうございました。

あなたの、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

水島について、まだ知らない方が多くいらっしゃいます。その方に知っていただくために、アンケートにご協力いただけないでしょうか。ご意見・ご感想をよりよいプログラムづくりに、反映したいと思います。お忙しい中、恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

質問 1) 水島にみなさんを連れて視察に来られる前に、何か困っていたことはありますか？
特にありません。

質問 2) 何がきっかけで、水島で視察受け入れをしていることを知りましたか？
以前から水島巡検を行っており、初めは水島財団の研究員として働いていた元教え子から教えてもらいました。

質問 3) 水島で視察受け入れをしていることを知って、すぐに行こうと思われましたか？
もしそうでなければ、なぜですか？
初年度（2006 年）はすぐ行きましたが、その後はほかの巡検との兼ね合いで今回になりました。

質問 4)
何が決め手となって、水島視察に行くことにしましたか？
日本の高度経済成長の光と影を象徴する場所であり、岡山にとっても避けて通れない問題なので。

質問 5)
実際にみなさんをつれて水島に来てみて、いかがでしたか？
いつも思うことだが、「公害は終わっていない」の一言に尽きます。

※ 上記のお声について、お願いがあります。インターネットや印刷物に掲載させていただいてもよろしいでしょうか？

(☐) 名前を出しても良い (☐) イニシャルなら出しても良い
名前 金 料 哲

このたびは水島に学びに来てくださり、ありがとうございました。

あなたの、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

水島について、まだ知らない方が多くいらっしゃいます。その方に知っていただくために、アンケートにご協力いただけないでしょうか。ご意見・ご感想をよりよいプログラムづくりに、反映したいと思います。お忙しい中、恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

質問 1) 水島にみなさんを連れて視察に来られる前に、何か困っていたことはありますか？

- ・講義時間という制約があった。学校から水島までの移動時間を含めると、現場の滞在時間や説明、意見交換などの時間が十分確保できないこと（昨年度までは、連続4コマの枠組みで、終日とした）。
- ・移動手段に制約があった。学生の費用負担と事故などの点から、原則、学外への移動は、学校のバスを利用することになっているため、バスの日程調整が必要となった。
- ・係る経費に制約があった。
- ・学生数に対する対応の不安があった。約60名の学生を引率し、案内するには、みずしま財団側で相応のスタッフ数確保が必要となり、このことで労力と経費負担が生じると危惧した（昨年度までは、十数名で適当な学生数であった）。
- ・経費に制約があった。非常勤という立場上、予算的な措置やゆとりがないため、資料代はもちろん、対応いただく人件費、事務経費を捻出できなかったこと（今回は、謝金として1人工程度しか認められなかった）。

質問 2) 何がきっかけで、水島で視察受け入れをしていることを知りましたか？

- ・普段から、みずしま財団の活動などについて、直接職員の方から聞く機会やチラシなどの情報を入手しており、視察受け入れのことは、ある程度知っていた。

質問 3) 水島で視察受け入れをしていることを知って、すぐに行こうと思われましたか？

もしそうでなければ、なぜですか？

- ・思いました。これまでも受け入れ実績があると聞いており、講義の一環に加えてく願ひした次第です
- ・当方の事情や都合をお伝えして、内容や行程の企画調整をさせていただきました。

質問 4) 何が決め手となって、水島視察に行くことにしましたか？

- ・普段から、受け入れ状況や他事業の実施内容、スタッフや組織的な対応などに触れていたことから、安心してお任せできると思いました。
- ・一般的でかつ机上の話だけでなく、現場で、現実に行き起きていることを間近に見せる、感じさせる、考えさせることの意味を大きいと考えており、水島地域の環境資源や経緯は、好適な材料であると判断しました。

質問5) 実際にみなさんをつれて水島に来てみて、いかがでしたか？

- ・現地での生々しい風景や状況は、それなりにインパクトがあり、いずれの学生にとっても強く印象に残るものとなったようです。
- ・今回のことが、学生自身にとって、今後、どのような形で具体の成果となって現れるかは量りかねますが、明らかに何らかの影響を与える、示唆を与える良い機会になったと思います。
- ・他にも学外実習対象の現場が複数ありますが、水島地区は外せない対象の一つです。来年度以降も引き続き、お願いしたいと考えています。

※ 上記のお声について、お願いがあります。インターネットや印刷物に掲載させていただいてもよろしいでしょうか？

(☐) 名前を出しても良い (☐) イニシャルなら出しても良い

お名前 中村 開三

資料8．顧客調査

(1) 調査概要

調 査 対 象： 中国四国地域の大学の社会学・環境分野等の研究者
送 付・回 収： 郵送送付、FAX回収
送付件数・回収数： 361 通送付・22 通回収（回収率 6.1%）

(2) 調査票

学外での研修に関するあなたの、ご意見をお聞かせ下さい。

ご意見・ご感想をよりよいプログラムづくりに、反映したいと思います。
お忙しい中、恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

質問1) 学生／留学生のための、実習・研修で、学外への視察はありますか？

ある ・ ない

↓

質問1-1 どのような目的ですか？

(

質問1-2 そのための予算はありますか？ ある ・ ない

質問1-3 何かお困りのことはありますか？もしあれば、ご記入下さい。

(

)

)

質問2) 岡山県倉敷市水島で、実習・研修の視察受け入れをしていることを以前から知っていましたか？

1. 知っていて、行ったことがある。
2. 知っていたが、行ったことはない。

(理由：

3. 知らなかった。

)

質問3) 別紙の案内ちらしをみて、学生・留学生の実習・研修のために、水島に行ってみたいと思いましたか？

1. 行ってみたい。
2. 行ってみたいと思わない。

(理由：

3. 分からない。

)

質問4) 2月4日(金)の実体験モデルコースに興味がありますか？

1. 興味があるので、詳しい案内が欲しい。
2. 興味があるが、日程があわない。
3. 興味がない

実習・研修に関する資料等を希望される方は、連絡先を以下に記してください。

お名前

住所

(3) 視察意向別の集計

①「行ってみたい」と返信の方

大学名	氏名	専門	視察の有無	視察内容	予算の有無	水島についての情報について
徳島大学	N教授	活性物質生理学、細胞生物学	視察あり	キャリア教育	予算あり(限定)	視察していることを知らなかった
岡山大学	M准教授	廃棄物工学、社会心理学	視察あり	学外実習の一環としてヒアリング実施	予算あり	視察していることを知らなかった
岡山大学	S准教授	セラミック材料学	視察ない			視察していることを知らなかった
川崎医科大学	K教授	医療福祉デザイン学科、野生生物の生態調査、効果的な博物館展示法	視察ある	学芸員養成の為博物館等展示施設の見学研修	予算なし	視察していることを知らなかった
倉敷芸術科学大学	O先生	産業科学技術学部	視察ある(見学)	地元の産業への理解を深めるため	予算なし	知っていて、行ったことがある(見学)
鳥取環境大学	A准教授	環境保全学	視察ある	環境に関わる問題や地域づくりについて実地で学ぶ	予算あり	視察していることを知らなかった
氏名なし			視察ある	空港見学(空港での業務、航空業界について学ぶ)	予算なし(交通費学生自費、負担で困っている)	視察していることを知らなかった。留学生に日本での仕事について、考えさせたい
倉敷芸術科学大学	S教授		視察ある	企業見学	予算ある	知っているが行ったことはない。学生数が多いので、まとまった時間の確保が難しい。
島根大学	S講師	経済学	視察ある	学生教育	予算ある	知っていて、行ったことがある。
氏名なし			視察ある	講義科目の充実を図り、実社会の仕組みをしる	予算ある	知っていて、行ったことがある。

②「わからない」と返信の方

大学名	氏名	専門	視察の有無	視察内容	予算の有無	水島についての情報について
倉敷芸術科学大学	A教授	健康科学	視察ある	環境保健科学実験の樹状の一環	予算ない	視察していることを知らなかった。モデルツアーは興味があるが日程が合わない。
高知工科大学	T教授	物質・環境システム工学科	視察ない			視察していることを知らなかった。モデルツアーは興味があるが日程が合わない。
ノートルダム清心女子大学	M先生	生活経営学	視察ある	論文指導のため	この時期はない特に学生のための予算枠がない	視察していることを知らなかった。
ノートルダム清心女子大学	Y先生	生活文化史	視察ない			視察していることを知らなかった。大学の授業として使えるか不明。入試期間なのでモデルツアーに興味があるが日程が合わない。
岡山大学	K教授		視察ある	留学生。日本の現状を知る。学生の専門的勉強への動機付け。	予算ある	視察していることを知らなかった。9800円／人だとすると、無理がある。モデルツアーに興味があるが日程が合わない。
倉敷芸術科学大学	K教授		視察ある	留学生を対象にして平和教育の一環として広島平和記念資料館を訪問	予算ある	視察していることを知らなかった。モデルツアーは興味があるが日程が合わない。
氏名なし			当面はない			視察していることを知らなかった。モデルツアーは興味があるが日程が合わない。

③「行ってみたいと思わない」と返信の方

大学名	氏名	専門	視察の有無	視察内容	予算の有無	水島についての情報について
氏名なし			視察ある	各種	予算ない	視察していることを知らなかったモデルツアー興味がない。少し遠すぎるのが難です。遠方のため、費用がかかりすぎる
吉備国際大学	I教授		視察ある	社会学習	予算ない	お金がかかるのは無理です。興味はある。
氏名なし			視察ない		予算ない	視察していることを知らなかった。モデルツアーは興味があるが日程が合わない。
山口大学	M教授	循環環境工学科	視察ある	環境に対する取り組みの現場を知るため	予算ある。特に困っていない	モデルツアーには興味があるが、日程が合わない。時間、経費の問題でいてみたいと思わない。
岡山大学	N教授		視察ある	新入生の研修	予算ない	視察していることを知っていたが行ったことはない。モデルツアーは興味はあるが日程が合わない。残念ながら目的にあわず。

資料9．打合せ記録

中国地域採択事業キックオフミーティング記録（打合せ記録 1-1）		
目 的	実証事業の特性について、採択団体・応募概要等紹介、対策事業の進め方について	
場 所	環境省 中国四国地方環境事務所 4階会議室	
日 時	平成 22 年 8 月 5 日（木）14：00～16：30	
参 加 者	環境省 中国四国地方環境事務所	古川課長、石川氏、
	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）	平田氏
	EPO ちゅうごく	松尾氏、井上氏、田中氏
	みずしま財団	塩飽
【状況】 ◇概要説明 平田氏より昨年実績概要説明があり、今年度注意点 3 点説明があった。 1) 時間と求められる質にギャップがあること ・ビジネスとして収支の成立と、公益性の高いものとの両立の難しさ →社会的なモデルとなることを期待している 2) 計画の制度を上げること ・実証実験→推敲の時間 ・金融関係の視点も入れて 3) プロセスの記録をしっかりと取っておくこと。 ・計画→実施→フォロー（記録・測定が重要） ◇計画事業の背景、内容の説明（みずしま財団塩飽より説明） ・水島の現状等について ・応募事業について ・活動予定について など 【課題と対応】 ・ 目標値が、年 5 件で 100 万というのは、低いのではないか？ ・ ソフト価値の向上を。着地型観光では、これまで失敗例も多いので注意が必要 ・ HP は、日本語のみでなく、多言語化してはどうか ・ マイチケットとの関係はどうなっている？どこまで関わってもらうのか ・ 公害患者さんは、エコツアーに協力的なのか？ →水島の患者さんは、前向きに取り組んでくれるだろう ・ 環境課題の設定をしっかりとる →事業として成り立ち、公益性があり、なおかつ環境に貢献するということ ・ 審査員は、明確にしないと納得しないだろう ・ 誰に何を、どのように売するのか？がポイント。どういう価値か、対象はどこか明確に。		

研究会委員就任依頼 訪問記録（打合せ記録 1-2）		
目 的	・状況ヒアリング ・事業の説明・研究会メンバー就任依頼	
場 所	倉敷芸術科学大学 趙 慧欣先生の研究室	
日 時	平成 22 年 9 月 6 日（月）13：30～16：00	
参 加 者	倉敷芸術科学大学教授	趙 慧欣氏
	みずしま財団	藤原
【状況】 ◇計画事業の背景、内容の説明（財団より説明） ・水島の現状等、「環境と観光をつなぐ研究会」、活動予定について ◇協力できる点についての確認 ・中国大学研究者のつながりがある。中国人の嗜好→瀬戸内海の景観の評価が高い。 ◇留意点 ・旅行業法など、法律に違反しない形でのツアー実施を指摘された。 【課題と対応】 ※ツアー実施にあたっては、旅行業法への対応が必要→㈱マイチケット山田氏に聞く。		

EPO ちゅうごく指導 （打合せ記録 2）		
目 的	状況ヒアリング、事業の説明、確認事業計画の説明、スケジュールの確認ほか	
場 所	みずしま財団事務所	
日 時	平成 22 年 9 月 10 日（金）13：30～16：00	
参 加 者	地方事務所	石川氏
	EPOちゅうごく	井上氏、田中氏
	みずしま財団	藤原、塩飽
【状況】 ◇計画事業の背景、内容の説明（財団より説明） ・水島の現状等について、「環境と観光をつなぐ研究会」の構成案、スケジュール等 ◇実証事業について（地方事務所、EPO ちゅうごくより説明） ・実証モデル事業のスケジュール確認 ・専門スタッフは、Plan 策定支援を担当。計画づくりや事業進捗を指導する。 【課題と対応】 ※政治情勢の影響により、モデル実証の対象として予定していた中国科学院の来日の可否が不明。実証事業のアンケート調査などに影響する。 →国内留学生へのニーズ調査等代替するよう助言をうけた。次回改めて検討。 ※ツアー実施にあたっては、旅行業法への対応が必要 →環境と観光をつなぐ研究会委員の山田和生氏に確認するよう助言を受けた。		

環境と観光をつなぐ研究会 事前検討（ワーキンググループ）（打合せ記録 3）		
目 的	・ 状況ヒアリング ・ 事業の説明・確認 事業計画の説明、スケジュールの確認ほか	
場 所	マイチケット事務所（山田和生氏事務所、尼崎）	
日 時	平成 22 年 9 月 14 日（火） 13：30～16：00	
参 加 者	環境と観光をつなぐ研究会 メンバー	山田和生氏、鎗山善理子氏、原 潤氏
	みずしま財団	藤原、白神
【状況】 （１）「環境と観光をつなぐ研究会」に先だっての少人数打ち合わせ （２）議題の確認 ・ 海外からの視察受け入れを考える場合に考慮しなければならない点 ・ 旅行業法の制限について ・ 中国清華大学研究者の感想について（７月に視察受け入れ） （３）意見交換 ◇中国の状況について ・ 中国では研究者と行政が兼ねている場合がある。香港では環境保護団体が、広東省惠州での香港企業の水銀汚染の問題を発表したりしている。 ・ 中国では環境問題を CO2 問題に集中させている。電気自動車、ハイブリッドカー、二酸化炭素、温暖化問題、低炭素社会などのキーワードが優先。廃棄物処理が都市部ではなされておらず、関心が高い。上海、広州など。水問題は重視されている。対象によって打ち出し方が変わってくるのでは？ ◇ビザの問題 ・ 日本のビザをとるには、招聘（保証）状がいる。２種類あって、観光のものは日本側の旅行会社がとり、不特定多数の人の物。NPO・企業の場合は、招待で、限定された人の物。 ◇法的な問題について 1. 通訳案内士法 資格を持っている人以外は、「業」としてはやってはいけない。単独ならば OK である（と思われる）。 2. 旅行業法 旅程管理をするならば、旅行業者が必要。包括的管理がいるならば、旅行業者（企画旅行）中国からの手配旅行契約。みずしま財団がする場合は、視察のコーディネート料という意味合いになるのでは？旅行業料にならない。 3. 移動の手段 営業者でないといけない。実際にはグレーゾーンが多い。例えば、ホテルの送迎		

車は営業者ではない。陸運局とやりとりしてやっている。対価性があるかどうかなどが問題になるらしい。

◇ビジネスモデルについて

ツーリズムへの依存は、事業全体の 1/3 までが適当。

何を買いたいのか？何を求めているのか、行く人がいて初めてツアーが成り立つ。

現地に行つてつなぐぐらいの意気込みがいののでは？

商品 = 日程表と旅程→どう魅せるか、それを外からの目で見直す。

マーケットリサーチ。団体どう表現するのか？

◇あおぞら財団の事例紹介

日本と海外の受け入れの差はメニューとしてはあまりない。

個別で受け入れ対応している。単価設定は最近 HP でしている。あまり入りにならない。

海外からの視察で定期的なのは、韓国の司法修習生受け入れ、グリーンコリアを通じて

10 回受け入れている。裁判のしくみ、被害者の声、言葉の問題は留学生を含めて対応

している。参加費を講師代としてとっている。JICA 研修も行っている。東南アジア

の行政スタッフ、中国の行政職員。公害補償法のしくみを学んでいる。自動車公害な

ど。講師代をとっている。

◇㈱マイチケットの事例紹介

40 大学のスタディツアーに、フィールドを提供している。NGO のフィールドにマッチ

ングしている。大学は魅力がないとつぶれるとの危機感がある。学生の海外ばなれも

あり、国内プログラムをどこにするか、というのもある。

若者は、自分探しなどの内面的動機だが、シルバーエイジは自分を表現、貢献などで

ある。オプションだと儲からない。

値付けを下げない。付加価値が高い。少数での固まりを呼び込む。

マイチケットでやらないといけない必要や優位性がない。

軌道に乗るまで 2~3 年かかる、みずしま財団が本気でやるのか不透明。

環境保護団体、香港は NGO 多い。新聞社と一緒に来てもらって取材してもらおうとか。

価格設定、基準は根拠やロジックがいる。

1000 人をどう見つけるのが課題。HP、ひととのつながりなどで対応できるか。

コーディネート料をとる意義はある。みずしま財団は仲介の役割

ネガティブな事象には、避けられる可能性が高い反面、大きく反応する場合がある。

日本側の受け入れのハードルを下げ、中国の中間層がくるようになっている。

【課題と対応】

※旅行業者の選択

→既につながりがある水島の地元の旅行業者をパートナーに選ぶことを検討 (10/7 の研究会後に、対応する。)

※商品化

→ツアー案の具体化をする。

EPO ちゅうごく指導 (打ち合わせ記録 4)		
目 的	内部資源、外部環境の確認 (SWOT分析)、事業戦略	
日 時	平成 22 年 9 月 24 日 (金) 10 : 30 ~ 15 : 30	
場 所	みずしま財団事務所	
参 加 者	EPOちゅうごく	井上氏、田中氏
	みずしま財団	藤原、白神、塩飽
【作業】 ◇SWOT分析 (内部環境と外部環境) ・人・もの、ネットワーク、知的資産など、内部環境と外部環境を整理した。この作業を通して、組織体制や存在価値を再認識できた。EPO ちゅうごくのお二人に話し合いに参加してもらうことで、内部スタッフでは気がついていなかった資源や外部環境に「気づき」があった。 ◇事業戦略策定のための方向性検討 (ドメインの設定) ・SWOT分析に基づいて、今の段階で提供可能なサービスや対象顧客の設定、提供方法の検討を行った。「誰に、何を、どのように」を検討・設定したが、今後の事業の進展、ニーズ調査等の結果、市場環境等を考慮して、見直す必要。 【課題と対応】 ※他のエコツアーや類似事例の情報収集 →商品化の検討には不可欠。出来るだけ多く収集し、内容、価格、受け入れ体制などの項目で整理する。 ★後日電話にて質問と対応 他のエコツアーや水俣などの公害を伝える活動をしている団体を競合先として「脅威」としているが、これらと連携する必要があると思う。それでも「脅威」でよいのか？ EPO 井上氏 : 「ライバル」として注視し、先例をしっかりと研究し、良い点は学び吸収して行く。そうして、財団が提供するサービスの質を高めていくことが必要ということ。レベルを高めることで、相互にメリットのある連携が可能となる。安易な連携は、相手のデメリットにもなりかねない。NPOや財団も、それくらいの競争意識を持つことが必要。利用者に満足を与えなければ再利用も口コミも期待できない。		

SWOT 分析（9 月 24 日の記録）

視察受け入れ実績がある 公害問題、環境問題に対する活動の豊富な実績・経験、ノウハウがある 公害患者との絆がある 留学生がいる大学とのネットワークがある 地域の企業・行政との連携関係がある 環境活動を行う個人や団体等とのネットワークがある 漁業者とのつながりがある 瀬戸内海に面したまちに立地している コンビナートがある	有料サービス（視察受け入れ）の実績、ノウハウがない 国外の人との言葉の壁がある スタッフの不足 観光ツアー運営の資格・ノウハウがない 連携できる企業がある反面、つながりのない企業が存在する 経営感覚がない 外部との連携が必要であり、事業全体では外部依存度が高くなる
日本への東アジア、特に中国人観光客の増加 日本への中国人留学生の増加 中国での環境問題に対する意識の高まり 日本の自然に対する関心の高まり 瀬戸内海の景観に対するニーズがある 日本の環境対策技術への関心の高まり	政治情勢の変化 円高等経済情勢の悪化、変化 エコツアーやエコツーリズムを実施する環境保全団体がある 他の公害地域でも情報発信やツアー受け入れをしている。 異文化コンフリクト（軋轢）の発生 （意見・感情・利害の衝突）

事業計画 3 の 4

達成するための鍵 ・事業運営に関係する（協力を必要とする）個人、団体等との信頼関係の構築 (緊密なコミュニケーション) ・視察に訪れた人たちとの情報交流等、継続した関係の構築（顧客関係性→口コミ喚起）
--

以下、事業計画に記述しないが、将来的に活用可能な資源やその他の問題点。

(9月24日の記録)

・在庫は不要 ・既存スタッフで対応可能（対応する） ・既存事業の延長線 ・設備投資不要 ・水島臨海鉄道 ・農業 連島牛蒡、レンコン ・亀島山	・効果的な広告宣伝、営業が必要 (口コミ、紹介が有効、HPは?) (twitter、facebook等もあり) ・代理店活用と同時に自前営業努力が必要では? ・多様な連携必要＝同時に外部依存は弱点 ・定期リピート需要（毎年・団体研修等）の獲得 ・メニューの変化、向上が必要
事業としての将来リスク ・公害問題の風化 ・質の高い留学生の確保 将来活用可能な地域資源 ・水島臨海鉄道 ・農業 連島牛蒡、レンコン ・亀島山 ・韓国料理、焼き肉店	進捗指標 ・視察の問い合わせ数 (メール等でのコンタクト回数) →内、個人や団体の紹介、口コミ件数 ・スタッフ研修を実施した留学生数 ・視察研修者の満足度評価 ・クレーム件数 ・協力者とのミーティング回数 達成目標指標 ・年間有料視察受入数、回数 ・視察研修レクチャー収入 ・寄付金収入依存度の低下

第1回環境と観光をつなぐ研究会 (打合せ記録 5)		
目 的	研究会メンバーの顔合わせ	
日 時	平成 22 年 10 月 7 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00	
場 所	岡山コンベンションセンター会議室	
参 加 者	委 員	磯部氏、大塚氏、趙氏、永瀬氏、中野氏、中村 (開) 氏、中村 (泰) 氏、藤本氏、古川氏、山田氏、鎗山氏
	E P O	井上、田中
	みずしま財団	藤原、白神、塩飽、原
(1) 研究会について 研究会の枠組みおよび目的を事務局藤原から説明。アジア、特に中国をターゲットにしていること、研究会を年度内に3回開催することなどを説明した。 (2) 研究会メンバー 自己紹介 (3) 課題について討議 1. ニーズ把握とツアー相手側の状況把握 2. 法律的問題についての考え方 3. ツアー開催の仕組み 4. メニュー案・価格設定が課題 主な意見 ・ 水島のイメージは、プラスとマイナスのイメージ。マイナスをどう克服していくか、というメッセージがある。 ・ 中国清華大学の受け入れ時のアンケートをみて、「しまったな」と思った。「もっと知っていたかった。」「専門的に掘り下げてききたかった」のかと。素材として、なりたつと思う。専門から一般へ。見せるほうからも価値をつけていく必要があるのかなと思った。 ・ 今回の水島のメニュー一覧には、産業観光のところで水島コンビナートの企業がいっているが、企業のかたにどういう立場・形で話してもらうかは課題のひとつ。 ・ 美観地区は景観だけでなく、生活まで掘り下げてお見せすることはできる。私ができるのは、持続可能な暮らしを自分たちが住んでいるところで見せることだと思う。 第一回目は自己紹介を中心に、委員の情報や知識等の共有を行った。 また、水島でのツアーの可能性について発言いただいた。 次回は、メニューを具体的に議論する。 2010 年 11 月 10 日 (水) 14 時 ~ 16 時 。 資料を事前に送付する。 →その後の調整で 12 月 2 日に変更。 【課題と対応】 ※尖閣諸島の漁船衝突事件など、国際問題の発生 →一過性と判断できる (委員から助言あり)。長期的に見て、ツアーメニュー・プログラムを作る。		

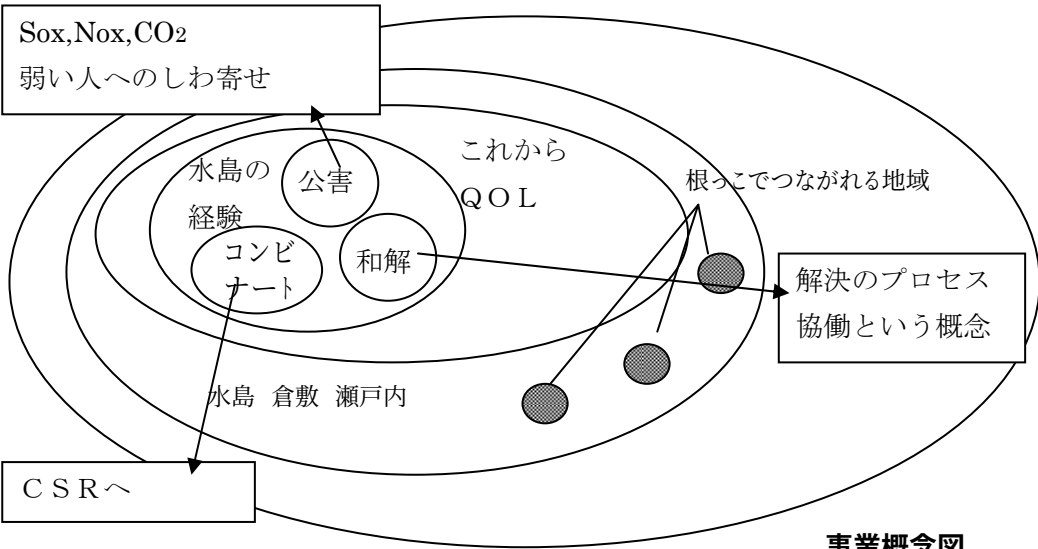


第1回研究会

環境と観光をつなぐ研究会 委員名簿

氏名	ふりがな	所属
磯部 作	いそべ つくる	日本福祉大学子ども発達学部教授
大塚恭子	おおつか きょうこ	(有) ミト・ワークス 代表取締役社長
趙 慧欣	ちょう けいきん	倉敷芸術科学大学産業科学技術学部観光学科 教授
永瀬一雄	ながせ いちお	倉敷市環境リサイクル局 環境政策部 環境政策課
中野達也	なかの たつや	倉敷市文化産業局 文化観光部 観光課 課長
中村開三	なかむら かいぞう	(財) 環境保全事業団 環境学習センター「アスエコ」 副所長
中村泰典	なかむら やすのり	NPO 法人倉敷町家トラスト 代表理事 岡山県地域づくりマイスター
藤本千秋	ふじもと ちあき	(有) 語学研究システム代表取締役社長
古川 明	ふるかわ あきら	新水マリン株式会社 代表取締役社長
山田和生	やまだ かずお	(株) マイチケット会長
鎗山善理子	やりやま よりこ	(財) 公害地域再生センター (あおぞら財団) 研究員

(敬称略、五十音順)

アドバイザー委員訪問記録 (打合せ記録 6)		
目 的	アドバイザー委員への状況説明、委員からのアドバイス等	
日 時	平成 22 年 10 月 25 日 (月) 13 : 30 ~ 17 : 30	
参 加 者	アドバイザー委員	委員 2 名
	G E O C	酒井氏
	地方事務所	石川氏
	E P O ちゅうごく	杉山氏、井上氏
	みずしま財団	藤原、白神、塩飽
【事業背景・現状説明】 藤原から状況説明した。 【委員コメント】 ・何を持って帰ってもらうのか、何を、なぜという根っこの打ち出しが必要。 ・環境ではなく、人間の営みの話。対立を乗り越える力。信頼する力。解決のプロセス。 ・次世代にどう渡していくか → 未来づくり ・留学生と一緒にプログラム開発を行う。留学生との話し合いの中で絞り込んでいく。人々との交流により認識が高まる。 ・財産の棚卸⇒メッセージをどう語るか (対象別メニュー) ⇒モジュール化 ・対象別に価格を分ける方法もある。行政向け、企業向け、N P O 向け等  アドバイザー委員訪問  事業概念図 【今後の作業】 コンセプトの洗い直し。伝えること「財産」の棚卸しをする。 何を見てもらうかベースをつくる。		

EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 7)		
目 的	商品開発	
日 時	平成 22 年 11 月 9 日 (火) 10 : 30～17 : 00	
参 加 者	E P Oちゅうごく	井上氏
	みずしま財団	藤原、白神、塩飽
◇商品開発 ・水島が伝えることができること、伝えるべきことの棚卸 スタッフ打合せ (11/8) で話し合われた内容とメニュー抽出項目の検討 ・コンセプト、キーワードの検討 関係性：協働の視点、対立の中で生まれた協働 ここから以下に整理する。 ①コンセプトのまとめ ②テーマ別「伝えるメニュー」 企業、行政、市民、大学（研究者の果たした役割） ③みずしまが伝えるツアーの具体案 12 月 2 日の「環境と観光をつなぐ研究会」で提案し、協議できるようにする。 ◇商品開発—価格設定 ・原価計算から団体を対象としたツアー価格案を設定 過去の視察受け入れ状況から、団体の設定とした。 (※後日、個人設定も追加して見直し) →事業計画作成の作業は原価計算とツアー価格案の設定までとする。他のツアーの状況、12 月の研究会の意見を踏まえ再度検討し、収支計画を作成することとする。 【課題と対応】 ※「伝えることの抽出作業」の中で、発信側から伝えたいことが強くなってしまった。 伝えたいこと＝参加者が伝えてほしいこと、ではないことが分かった。		

吉備国際大学 視察受け入れ (打合せ記録 8)		
目 的	ニーズ把握他	
日 時	平成 22 年 11 月 17 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00	
場 所	水島地域周辺	
参 加 者	吉備国際大学	41 名 + 教員 2 名
	みずしま財団	藤原、塩飽
10 : 00 児島 IC → 鷺羽山スカイライン ・水島コンビナート概観 かみが辻からの眺望で、水島コンビナートの規模や、地理の把握 水島コンビナートに隣接する地区の問題 (呼松・松江) 開発があたえた町への影響とその後 11 : 00 ~ 11 : 50 ・公害問題の実態、意見交換 (於 : ライフパーク倉敷) 公害患者 3 名 公害とは何か? (被害者の語りから) 地域環境再生や普及啓発に向けての質疑応答 ※ みずしま財団からの依頼 アンケート 学生・留学生にとって気づきとは何か?、学びの機会についてのニーズ		

中間連絡会（東京）			（打合せ記録 9）
目 的	途中経過報告		
日 時	平成 22 年 11 月 26 日（金）13：30～17：00		
参 加 者	地方事務所 EPOちゅうごく	石川氏 杉山氏、井上氏	
	みずしま財団	磯部理事、藤原、白神	
【連絡会で出された課題と対応】・下記連絡会報告書の通り			
【問題点と対応】			
・「伝えることの棚卸」作業を通して極端なプロジェクトアウトになっている。伝えることの工夫に一生懸命になり意識が偏った形となっている。			
→事業計画の再修正と確認が必要。			
			中間連絡会
			

連絡会報告の抜粋（11 月 26 日記録）

意見・課題	地域支援事務局の対応方針
■ターゲットの設定 - 中国の研究者は適切なターゲットであるか不明点が残る。先生がいたから中国を対象としているのか。 - 国内ターゲット層の絞り込みができていない。	- 誰に：「著しい産業発展により環境破壊が危惧される中国の学生や行政・研究機関等、将来、地域の環境を担う個人・団体」 「中国に通じる人がいたから」という理由も、市場選択の条件「到達可能性」の面では妥当。 - 企業は、企業用プログラムの設定で対応。聞き取り等は予定しない。 - 申請段階の「中国からの誘致」を、情勢変化に対応して国内の留学生及び団体等に広げた経緯あり。
■プログラムについて - 宿泊を含まない 1 日コースしか設定していない。 ■採算と受け入れ体制 - 料金を設定しているが、年間の受け入れの規模について想定ができていないため、採算について検討できていない - 内部スタッフが少なく、受け入れ体制が整っていない。	- 財団としては、半日及び 1 日コースのみの対応とする。 - 留学生ガイド用マニュアルの策定検討。 - 受け入れ体制は、今後の状況により対応。外部のネットワークで対応となる。

第2回環境と観光をつなぐ研究会 (打合せ記録 10)		
目 的	ツアーメニューおよび、プログラムについての検討	
日 時	平成 22 年 12 月 2 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00	
場 所	岡山コンベンションセンター	
参 加 者	委 員	磯部氏、大塚氏、趙氏、中村 (開) 氏、中村 (泰) 氏、藤本氏、古川氏、鎗山氏、オブザーバー矢吹氏
	EPO ちゅうごく	杉山氏、田中氏
	地方事務所	課長古川氏、石川氏
	みずしま財団	太田、藤原、白神、塩飽、原
1. 進捗報告と、第二回研究会の議題 (1) 進捗報告・今後の方針・スケジュール (2) 第二回研究会 ツアープログラムの具体案について 外部との連携について 2. 課題についての討議 (1) 市場について ＊ニーズ把握と今後について - 水島を訪れた留学生の意識について - 今後の受け入れ 12 / 3 岡山大学 金研究室 (5 名) : 環境理工学 12 / 6 中国地方民医連事務局 (20 名) : 医療福祉 ＊参考資料 : みなまた環境大学 (2) 商品開発 ①水島ツアープログラムの内容について ＊ 提供可能なテーマ別メニュー (要素) ＊ ニーズ別ツアープログラム (組み合わせ案) ②外部との連携 【主な意見】 - ツアーに参加するとこのように考え方が変わるという効果を整理して書く。 - 水島コンビナートがつくったまちと、コンビナートがなくてもつづいていたであろう美観地区。その比較。自分のまちが今後どうなるのかという未来を考える上で、まちの誇りをどういかにするかという視点から、ぜひ美観地区を通してほしい。 - 提供可能なものと、その組み合わせという表現はおもしろい。 - なぜ水島でないといけないのかというのがポイント。コントラストがアピールできる点だと思うが、プログラムが良くてもアピールがする力が弱いと埋もれる。 【課題と対応】 ※プログラムの狙いと効果 (目指す姿、変化) を示す。		



第2回研究会

EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 11)		
目 的	原価（費用）計算、価格設定、収支計画作成について	
日 時	平成 22 年 12 月 3 日（金）11：30～16：00	
場 所	みずしま財団事務所	
参 加 者	EPOちゅうごく	井上氏
	みずしま財団	藤原、白神、塩飽
・中間報告会の課題対応：具体メニューは継続して作成する。 ・研究会の対応：プログラムに対する意見等の反映 ・原価計算、価格設定、収支計画： - 人件費、バス代等費用概算見積もりによるシミュレーション - 団体、個人に分けた価格設定の検討 ・事業進捗指標作成：項目の検討、仮設定 ・リピーターづくりから固定客化への方策検討： - リピーターの大学等で無料の「出前講座」を開催し、併せてPRを行う。 【問題点と対応】 ※他のエコツアーやツーリズムの情報収集と一覧にまとめる。 ※研究会課題、狙いと効果（想い）をメニュー一覧に記入。 ※マーケティングについては、研究会委員の大塚恭子氏に意見を聞く。		

◆価格設定の検討

当初は、費用として

	1回につき	15人だとして	一人あたり
人件費（財団スタッフ）	24,300 円	→	1,700 円
人件費（留学生案内）	7,000 円	→	500 円
弁当代		→	1,000 円
資料代			700 円

別途中型バス代：40,000 円
一人あたり：2,700 円

+

3,900 円

価格	バス代込	バス代抜き	備考
高級	12,700 円	10,000 円	
妥当	9,200 円	6,500 円	原価+39-40%
普及	8,200 円	4,500 円	実績値

再検討

団体用と個人用を分けて、再検討

◆ 再検討の結果

※ 団体用：随時、求めに応じて実施。人数は問わない。

【費用】

・人件費 32,300 円

この額は必ず確保！！

、人数を問わず、定価は 50,000 円（バス代等は別）。
値下げラインは、実費別の 35,000 円

まで。

- ・ バス代 人数によって、値段は異なる。
- ・ 資料代+弁当代 1700×人数分

実費支払い
（バスは各自手配と
いう場合も）

【団体かつ少人数が、
バス等すべフル手配の場合】

- ・ 個人扱いで安くできるが
- ・ 他の客も同行 という提案もあり。

※ 個人用：日程を設定して実施。価格は、前回検討のバス代込みの妥当金額も鑑み、

1万円を切る値段設定として、9,800 円とする。最少催行人数は設定する。

- ・ 人件費 32,300 円
- ・ バス代 小型（～18 人） 30,000 円
中型（～24 人） 40,000 円
大型（24～ 人） 60,000 円

- ・ 資料代+弁当代 1700 円／一人

8人でぎりぎり、赤字でない計算。よ
って、最少催行人数は10名。

7人の場合：（人件費 32,300）＋（バス小型 30,000）＋（資料弁当 1,700×7）
合計 74,200 円 → 一人あたり 10,600 円

8人の場合：（人件費 32,300）＋（バス小型 30,000）＋（資料弁当 1,700×8）
合計 75,900 円 → 一人あたり 9,488 円

岡山大学金研究室 視察受け入れ (打合せ記録 12)		
目 的	ニーズ把握他	
日 時	平成 22 年 11 月 17 日 (木) 14 : 00～16 : 00	
場 所	水島地域周辺	
参 加 者	岡山大学金研究室	学生 5 名 + 教員 1 名
	みずしま財団	塩飽
AM 児島 IC→鷺羽山スカイライン ・水島コンビナート概観 かみが辻からの眺望で、水島コンビナートの規模や、地理の把握 水島コンビナートに隣接する地区の問題 (呼松・松江) 開発があたえた町への影響とその後 PM 公害問題の実態、意見交換 公害患者、公害とは何か? (被害者の語りから) 地域環境再生や普及啓発に向けての質疑応答 ※ みずしま財団からの依頼 アンケート →1 日と長いコースなので、フィールドワークを丁寧に行った。 学生にとって気づき、学びの機会についてのニーズ把握を行った。		

吉備国際大学 視察受け入れ (打合せ記録 13)		
目 的	ニーズ把握他	
日 時	平成 22 年 12 月 6 日 (月) 15 : 00～17 : 00	
場 所	水島地域周辺	
参 加 者	中国四国地方民主医療機関連合会事務局	20 名
	みずしま財団	塩飽
15:00 水島協同病院出発 (解説: 医療従事者が地域を知ることの重要性について) 15:20 鷺羽山スカイライン鴨が辻 (バス下車 10 分: コンビナートと公害発生の地理的要因) 15:30～16:00 コンビナートと呼松地区の接近度、呼松エピソード 16:00～16:20 松江地区 (バス下車 20 分: 集合高煙突、大気汚染監視測定ポイント) 16:20～ 移動バスでの解説 (板敷集団移住の歴史、産業観光・環境学習の動向) 16:40 あさがお会館 (解説 5 分: 公害患者の生活の質向上など) 16:45 みずしま財団事務所 (解説 10 分: 対立を乗り越える力、創り出す力) 17:00 水島協同病院到着 → 医療従事者にとってのツアー効果について、アンケートで聞いた。		

モデルツアー外部連携（中村泰典氏）打合せ（打合せ記録 14）		
目 的	実証モデルツアー実施の具体化について	
日 時	平成 22 年 12 月 8 日（水）11:00～12:45	
場 所	NPO 法人倉敷町家トラスト事務所	
参 加 者	環境と観光をつなぐ研究会	NPO 法人倉敷町家トラスト代表 中村泰典氏
	みずしま財団	藤原、白神
（１）確認事項 ◇モデルツアーに連携について、組織内部の意思確認について。 ・連携することは内部で了承とれるので、問題ない。 ◇町家トラストで、提供できるもの ・今年、都市景観大賞をもらった。景観と商売がつじつまが当たっている点、長く住んでいてライフスタイルが確立している点が評価された。 ・これまでの経験上、町並みは日本の方には感覚的にわかるらしく、町全体が「エコ」だといってもらっている。暮らし直しを見せられるか。 ◇ツアー位置づけ・今後について ・工場と地域をつなぐ。素材の生産基地である水島と、新しいコミュニティとの関係をどう作っていくのだろうかということに関心がある。工場側の意識はどうか。 （２）今後の作業分担ほか ・ツアー具体化については、時間等、提案してくれば、それに合わせて設定できる。 ・昼食は、同じ町内にある旅館東町で 1500 円～2000 円、元気屋で弁当を頼んで町家トラスト事務所 2 階で食べる、アイビースクエアのつたを利用する、などが考えられる。 ・「く・ら・し・きになる暮らしなおし」という言葉を使っている。「すみなおす」・「すみなす」という言葉もよいと思っている。 ・2／5（土）路地歩き（古地図復元）、3／5（土）ライフパーク講座で焼き杉で塀を直す講座をする。それ以外の日程であれば大丈夫。 【問題点と対応】 ※日程・時間等を具体化して、提案する。 →メール・電話のやりとりで、2011 年 2 月 4 日に決定。午後 13:30～15:30 を講師として担当いただくこととした。		

EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 15)		
目 的	実証モデルツアー実施、価格設定、資料等について	
日 時	平成 22 年 12 月 14 日 (火) 10 : 30 ~ 16 : 00	
場 所	みずしま財団事務所	
参 加 者	E P O ちゅうごく	井上氏
	みずしま財団	藤原、白神
◇モデル実証ツアー： 2 月 7 日実施予定(※日程変更 町家トラスト中村泰典氏の都合により 2 月 4 日に) 対象は、留学生を受け入れている大学の指導者、医療関係等の個人 ◇価格設定： 貸切バス費用→高額時期に合わせて設定。 ◇市場： 11 需要予測 民医連の加盟組織をセグメント B にする。岡山県内の留学生数、社会科学専攻数をセグメントの C とする。 ◇ニーズ別ツアープログラム：ツアープログラムの効果を議論。ねらいと効果を整理。 (1) 人・まち・環境を学ぶ水島ツアー (仮) - ニーズ「地域づくり・環境再生の見識を深めたい、地域づくり環境づくりに水島の経験を生かしたい。」 - ねらい／効果：環境・人の健康に配慮した視点を養い、企業活動、まちづくりに活かすことが出来る。 (2) 環境と医療のつながりを学ぶ 水島ツアー (仮) - ニーズ「地域の環境と疾病の関係について学びたい」「医学生、看護学生に学ばせたい、学びたい」 - ねらい／効果：病気と生活環境との関係性の理解を深める。患者の生活背景を想定し、診断や対応の出来る医療に従事できる人材を育成する。 ◇H P 作成： 原稿はみずしま財団で用意する。研究会委員大塚氏に依頼、打合を 12/16 に行う。 ◇資料 - 議事録の体裁をそろえておく。 - アンケート調査は鏡文書をつける。課題分析する。 - 協力者リスト、実行体制等書き加えておく。 【問題点と対応】 ※大塚氏にマーケティング、チラシ作成に関するアドバイスももらう。年内にツアー案内とアンケートを送れるようにする。 ※ガイドマニュアル：留学生を育てるプログラムとして、水島まちづくりWGと連動。 ※通訳案内士法の情報収集 (特区の件、通訳案内士資格取得等何か地元大学の観光学科と連携できないか)		

HP・広報関連打合せ （打合せ記録 16）		
目 的	HP 整備、および広報・マーケティング・チラシ作成等について相談	
日 時	平成 22 年 12 月 16 日（木）14:00～18:00	
場 所	(有)ミトワークス事務所	
参 加 者	(有)ミト・ワークス	大塚恭子氏
	みずしま財団	藤原、白神
(1) 広報についての基本的知識について ◇ツイッター 偶然の偶然が重なることで物事が起こることがある。 フォローしていかなないと増えない。基本は相互フォローだが、フォローしなくても良い。 500 人くらいを過ぎた頃から、瞬時に反応してくれる人がでてくる。 まめで丁寧な人が担当した方がいい。 ◇ペルソナ設定 Serth（探す）ところを丁寧に。設定を安易にせずに、リアルに考える。 ◇広報チラシ作成に関して ・大塚さんは(有)アカウント・プランニング 岡本達彦氏の講座で、来てくれた人の声のアンケートから、広告を作る方法が有効であることを学んだ。 ・タイトル設定は、なぜ、水島じゃないとダメなのかわかるように。 ◇DM の送り方：封書を見てもらうための工夫 「会社御中」ではなく、「〇〇研修ご担当者様」 手書きを添える。 ネームシールを大きくし、「こんなのをやります！」など中身を書き添える。 年賀状で PR する。 開ける前の工夫をする。 「詳しくは HP」を載せるならば、商品購入の決め手の理由・参加者の声等をのせる。 ◇今後の展開の提案 ・岡山県観光連盟に入ったら、様々な情報誌に掲載してくれる。年間 3 万円くらい。 ・倉敷市のコンベンションビューローにも入って発信するのも効果的ではないか。 ・真庭バイオマスツアー、西粟倉森の学校と相互リンクのお願いするのはどうか。 (3) 今後の作業分担 ・これまでに視察に来た先生に頼んで、「企画担当者」の視点の感想を 20 日（月）までに返信してもらい、チラシに反映させることとし、作業分担する。 ・「目がいく」という理由で手書きチラシが最近の流行。21 日（火）からは大塚さんが手が空くので、原稿はみずしま財団藤原が書き、大塚さんに送る。 【問題点と対応】 ※岡山県内在住者で水島の公害のことを知らない人が、ちゃんと知ることも必要。リアルなことをどこまで体験してもらうか課題。→今後の検討課題として残す。		

EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 17)		
目 的	報告書資料、実証ツアーについて	
日 時	平成 22 年 12 月 21 日 (火) 9 : 30 ~ 12 : 00	
場 所	みずしま財団事務所	
参 加 者	E P O ちゅうごく	井上氏
	みずしま財団	藤原
◇報告書資料： 必要資料、作成可能資料の調整・確認、既存資料のまとめ方 1 月 20 日を目途に作成 資料編目次案 顧客調査データ：題名、体裁そろえる。 →アンケート：清華大、岡大、吉備国大、民医連、指導者、見込み層（これから） 競合調査データ：エコツアー開催事例 研究会の議事録 トレンドレポート：留学生受け入れ状況調査→承諾を得ておく。 専門誌、業界紙の記事、データ ◇モデルツアー：実証データ 何を実証するのか→仮説・目的を準備→やってみる→結果→それで、どうする。 課題を挙げておいて検証する。 価格の妥当性、ニーズへの対応の有無、ツアーの内容、ガイド案内の内容。 アンケートで思っていたこととツアーの整合性についてはかる。 【問題点と対応】 ※プログラムの狙いと効果の一貫性が必要。想いを表現する。 →対立、協働、被害、新しい価値の創造などキーワードも分類で付記すると効果的。 ※11 需要予測 →対象の絞り込み、「ここには来て欲しい」というターゲット ※資料がアンケート集計等がエクセルデータになっている。 →ワードに統一しておく。 ※承諾必要事項 →連絡して承諾をとっておく。		

全観ネットワーク打合せ（打合せ記録 18）		
目 的	価格相談と、実証ツアー具体化について	
日 時	平成 22 年 12 月 21 日（火）10：30～12：00	
場 所	みずしま財団事務所	
参 加 者	全観トラベルネットワーク	近藤良啓専務、牧野課長
	EPOちゅうごく	井上氏
	みずしま財団	藤原
12 月 7 日に事前相談として、連携の可能性について相談し、了解がとれたので、実務レベルでの話し合いを 21 日に行った。講師の都合で、2 月 7 日予定が 4 日に変更になった。 （1）料金設定について ・バス料金：税込み価格でのバスの料金表（シーズンごと）を持参してくださった。11 月は、ピーク季節だが、3 連休の後は少し安い 3 月は春休み以降は少し高い。 ・企画料（300 円）は、旅行保険・補償・事務手続きの料金 （2）バスの手配について ・大型バスは 45 人乗りと 49 人乗りがあるが、どちらも 12m の同じ大きさ。座席設定で人数が変わる。49 人乗りは補助席が 8 あるので、最大 57 人まで乗れる。一般には補助席は募集しないこととしている。2 階建てバスはあるが、故障することもあるので避けている。 （3）今後の作業分担 ・水島の行程案の最終案をもらって、条件書を作ってもらう。大塚さんのデータをもとに、条件書を入れ込む形につくるため、24 日 9 時半に渡す。 ・部数と費用についてもその際にいう。 ・ターゲット・パンフレット・ボリューム、数 どれだけ費用がかかるか。パンフレットを良いものにするならば、期間をひろげてスケールを大きくして、2～5 月のあいだに、1 万枚配布して 500 名集めて、単価下げるなどの工夫ができる。 ・現状は、内部で必要部数を輪転機で回す方がいいのでは？ ・ツアー行程はまずは、基本形をつくって、+アルファとして上、下があればいいのでは。 ・打ち出し方としては価格 4000 円に バス 3 万円を頭割りしますというのもできる。 ・24 日にデータを全観に渡す。27、28 日に作成してもらう。 【問題点と対応】 ※手配旅行（特定内募集）では「バス代いくらです」というだけが旅行会社の役割。主催旅行は、募集行為があり、本来的にはパンフレット代も旅行料金に上乗せする。価格は本来的には全観さんが決める。 →今回のモデル実証事業に関しては、基本は主催旅行の形式だが、手配旅行に近い形で実施する。		

EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 19)		
目 的	事業の進捗確認、事務連絡 (報告書作成、実証ツアー、HP作成ほかについて)	
日 時	平成 23 年 1 月 12 日 (金) 13:00~16:00	
参 加 者	EPOちゅうごく	井上氏
	地方事務所	石川氏
	みずしま財団	藤原
◇事業進捗状況：仕様書に沿った進捗状況、今後の予定等の確認 事業を育てるには、常にふり返りが必要で大事な点を指導いただいた。 いいものを作って、提案する力があれば、外部と連携もしやすい。 ◇実証ツアー 2月4日に予定変更。参加確定 12,3 名。20 名程度まで増やしたい。 当日アンケートの内容検討 ◇留学生・ガイド ・ その人がどう感じたか、その思いを母国語で伝える。通訳案内士法について行政書士の松田葉子氏に尋ねる。緊急体制に書いておく。 ◇報告書資料編作成について 資料の作成状況、内容確認、追加修正確認 (中四国地域の研究者を対象とした意識調査ほか) 資料 1 市場データ 留学生受け入れ状況調査 資料 2 市場データ 類似エコツアー 資料 3 提供可能なテーマ別研修メニュー 資料 4 ニーズ別ツアープログラム (研修後の姿、こうなって欲しい) 資料 5 モデルツアー実証 (プロセス+実施報告) 資料 6 視察参加者アンケートデータ 研修受けた日と 資料 7 顧客調査データ (見込み客) 資料 8 環境と観光をつなぐ研究会議事録 資料 9 打合せ記録 【問題点と対応】 メニュー、プログラムの目的と効果 (メッセージ、想い) が表現されていない。 → ツアー名を変える。 メッセージ→ツアープログラム→どうなって欲しいか？これらはつながっている。		



打合せ

報告書掲載許可について電話連絡 (打合せ記録 20)		
目 的	岡山県内の留学生の数のデータの掲載許可について	
日 時	平成 23 年 1 月 25 日 (火)	
参 加 者	岡山大学国際センタ ー事務室	原田氏 (TEL : 0 8 6 - 2 5 1 - 7 0 4 4)
	みずしま財団	藤原
岡山県留学生交流推進協議会の「受け入れ状況調査」について、事務局に報告書に掲載してもよいか確認した。HP 上に掲載している公開・公表しているデータなので、問題ないとの了解を得ることができた。		

通訳案内士法について確認 (打合せ記録 21)		
目 的	留学生のガイドについてメールで問い合わせた	
日 時	平成 23 年 1 月 31 日 (月)	
参 加 者	まつだ国際法務オフ イス	行政書士 松田葉子氏
	みずしま財団	藤原
みずしま財団がツアー客を受け入れて、みずしま財団で雇ったアルバイトが対応する場合 通訳案内士法 36 条 ----- (通訳案内士でない者の業務の制限) 第三十六条 通訳案内士でない者は、報酬を得て、通訳案内を業として行つてはならない。 ----- 「通訳案内」というのは案内してもらう客から報酬を得て行うプロの通訳案内を想定。 現状では、たとえばみずしま財団がアルバイトを雇用してツアーの添乗をさせて、さらに「通 訳ガイド料」は無料サービスなのでツアー料金に含まれない、といってしまうと、「報酬を 得て」とは言えない。アルバイトに払うお金は「一般的なアルバイト (例えば記録作業等) への報酬」と説明することもできる。 【問題点と対策】 ※無資格ガイドの横行として今、問題視されているのは確かなので、整理がいる。 添乗員と通訳案内の間のグレーゾーンについての指摘 http://www.kanko.metro.tokyo.jp/administration/inter/pdf/ryokogyo07_01.pdf →資料にはガイドとは歴史や背景について「能動的、積極的に説明を行う行為」とあるので、 「質問に答える」「話し合う」「感想をのべる」はガイドとはいえないと解釈できる。 この解釈で対応する。		

EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 22)		
目 的	商品開発、報告会資料について	
日 時	平成 23 年 2 月 2 日 (水) 9 : 30 ~ 12 : 00	
参 加 者	E P O ちゅうごく	井上
	みずしま財団	藤原、白神、塩飽
・ 14 日提出報告会資料 : 事業計画とプレゼン資料 (パワーポイント)、必要なものは添付資料として提出 必要な内容は、中間連絡会で課題となった具体的なメニューとツアープログラム、 留学生の状況データ、実証ツアーの結果 (参加者の声) ・ 商品開発 : 再検討 メニューごとの、なにを伝えたいのか、感じてほしい想いの表現の検討、修正 ミッション、ツアーの目的、メッセージ・想いに一貫性が必要 一つのメッセージの表現として、複数の場所やメニューがあるのは当然 →一覧表のまとめ直し 【メッセージ】 ◇ 住民運動→規制→技術開発の流れは重要 ◇ 緊張感ある協働 ◇ 環境コミュニケーション ◇ 社会的責任の重要性 ◇ 和解までのプロセス、和解からのプロセス 【問題点と対応】 ※企業の当時の考え方や担当者の想い。今は聞けないが、今後は語ってもらいたい。 →短期的課題 ※メッセージとして「～したのか？」などの疑問形の表現は削除。明確に示す。 →次回までの宿題		

モデルツアー「技術と暮らしと、私と未来」実施（打合せ記録 23）		
目 的	モデル実証のため	
日 時	平成 23 年 2 月 4 日（金）9：00～16：00	
参 加 者	ツアー参加者	21 名（申込み 16 名、留学生 5 名（支払いなし）
	みずしま財団	藤原、白神、塩飽、原
①水島コンビナート  鴨が辻山から望む  移動内の説明 ②患者の声ヒアリング （昼食）    患者の声ヒアリング ③倉敷町家トラスト ④振り返り   倉敷町並み 【問題点と対応】 ※振り返りでの意見、アンケート記入意見の検討 ※説明の内容と合わせて、町並みの中の安全かつ円滑な誘導等についても、今後改善を重ねる。  振り返りの様子		

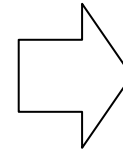
EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 24)		
目 的	メッセージ、想いの表現について	
日 時	平成 23 年 2 月 7 日 (月) 10 : 00 ~ 15 : 00	
場 所	みずしま財団事務所	
参 加 者	E P O ちゅうごく	井上氏
	みずしま財団	藤原
・疑問形は使わない。簡潔な言葉で表現する。 ・患者さんの声などツアーの途中で気になった言葉は、メッセージに取り入れ可能。 ◇ 「患ったものでないとわからない苦しみ」 → 生活に入り込んできた公害 ◇ 「きれいな空気を取り戻したい」 ◇ 「未来に持ち越さない」 ◇ 「二度とこんな思いをさせたくない」 ◇ 「過去を顧みて、つじつまの合った未来をつくる」 など 【問題点と対応】 ※報告会資料は別途パワーポイントで作成 ※留学生の現状、具体プログラム、実証ツアーの報告を簡潔に報告する。 ※事業計画は、メッセージ修正、ペルソナ、おわりに等の記述ほか再度確認する。		

水島で、提供可能なテーマ別メニュー 変更点

□ 住 民

メニュー	具体的な内容（誰が、どこで、何を伝えるか）	変更前 参加者に受け取ってもらいたいこと
① 公害による農業・漁業被害	■呼松で、みずしま財団職員が解説 ・ミカン枯死、イ草先枯れ、梅が結実しない、ネギ畑一夜で全滅 ・高梁川河口玉島地先ノリ養殖が大不作。 ・呼松港にボラ、イナ、ウナギ、ハゼなど大量に死んで浮かぶ。 ・1960年代～70年代に農業、漁業など第一次産業に被害がおきた。農協や漁協が県や市に抗議した。	・被害がどこにどのように発生したのか？ ・住民が当時、どのように対応したのか？
② 公害被害者の声	・公害患者が、あさがお会館で語る。 ・当時の被害の様子。 ・現在も薬が手放せない暮らし。薬による副作用がある。	・当事者から直接被害の様子を聞く。

2月2日、7日の指導にて変更



変更後

メッセージ
最初に現れた公害 ・被害の状況 ・住民の対応
水島の空気を何とかしたいという住民の思い、力 ・患った者でないと分からない苦しみ ・きれいな空気を取り戻したい ・未来に残したい ・こんな想いを二度とさせたくない ・生活に入り込んできた公害

③声を上げる 住民、支援者	■ 公害患者会太田事務局長が解説 ・公害病友の会結成、公害患者会。 ・運動の展開と支援の拡大 ・裁判、交渉	・どのように支援を広げたのか？
④科学者・医療 従事者	■ みずしま財団研究員 ・公害が激甚だった時代には、科学的調査で住民運動を支援 ・公害死亡患者 501 例を病歴等遡って調査した「遡及調査」 ・公害患者の生活の質向上のために、呼吸器リハビリテーションの開発と普及→病気は治らないけれども、楽になるためにどうしたらよいかを指導	・専門家の社会的な役割。
⑤和解の意味 →環境コミュニケーション の原点	■ みずしま財団研究員 ・ 対立を乗り越えて、生活環境の改善、環境によいまちづくりという点で、企業と被害者が和解した。	・ 和解の意味：対立を乗り越える力、信頼する力がどう解決のプロセスを導き出したか。 ・ 協働という言葉のない時代に、環境を一定レベルにしたのは「緊張感ある協働」での取り組みだった。 ・ 現在の課題。

市民が動かないと社会は動かない ・環境破壊被害は弱者ほど大きい ・被害は今もつづいている ・健康被害は回復しない
・専門家の社会的な役割。
和解までのプロセス ・和解の意味 ・協働のない時代に、大気汚染を一定レベルに下げたのは「緊張感ある協働」での取り組みだった。緊張感ある協働とは、住民が公害反対の声をあげ、行政がその声に応えるべく規制をつくり、その規制を守るために企業が技術革新をした。その関係性。

⑥環境再生	2000年みずしま財団設立まちづくり、 環境再生へ 海の環境再生、体験型の学び（漁業体験&海底ゴミ調査） まちづくり	
⑦呼吸器リハビリテーションの考え方・指導	■ 理学療法士佐藤氏、医師里見氏 ・呼吸器リハビリテーション指導、実演	・ 公害は過去のものではない。今の健康づくりに活かされている。 ・

和解からのプロセス

- ・ 企業優先の地域づくりを住民の手に
- ・ 住民から発信するまちづくり
- ・ やっと企業が関わる姿勢。

- ・ 公害は過去のものではない。今の健康づくりに活かされている。

□ 行 政

メニュー	具体的な内容（誰が、どこで、何を伝えるか）	変更前 参加者に受け取ってもらいたいこと
①日本で最初の国立公園 瀬戸内海	■ 鷺羽山 or 寄島 - 日本で初めて国立公園に指定された瀬戸内海 - 景観 - 海底ゴミ問題 - 漁業の現状（寄島では、漁業体験も可能）	瀬戸内海を巡る環境問題は多岐にわたっていること。（景観保全、水質保全、ゴミ問題）
②地域開発	■ 場所 水島地域全体を見渡せる鴨が辻（鷺羽スカイライン途中）で解説 ■ 内容： 1952（昭和27）年 岡山県が水島地区の国有地を買収。岡山県が水島臨海工業地帯造成計画案を作成、開発に着手。岡山県企業誘致条例制定。 - 地震が少ないこと、高梁川流域の水が豊富であったこと、埋め立てやすい浅瀬が	- 岡山県が積極的に地域開発にとりくんだこと。行政の責任は裁判では問われていないが、公害発生させない努力をもっとさきにすべきではなかったのか？ - 高梁川河口の高大なアマモ場・干潟が、干拓と埋め立てで全滅し、環境が激変した。 - 海からの風と、山に



変更後

メッセージ
見えないところにも、問題がある 瀬戸内海を巡る環境問題は多岐にわたっていること。（景観保全、水質保全、ゴミ問題）
経済発展、効率性優先の弊害 - 岡山県が積極的に地域開発にとりくんだこと。行政の責任は裁判では問われていないが、公害発生させない努力をもっとさきにすべきではなかったのか？ - 高梁川河口の高大なアマモ場・干潟が、干拓と埋め立てで全滅し、環境が激変した。 - 海からの風と、山に囲まれる地形で、汚染物質が対流し、公害が発生した水島。計画で見抜けなかった失敗。

	広大にあったことから率先して開発された。 ・	囲まれる地形で、汚染物質が対流し、公害が発生した水島。計画で見抜けなかった失敗。
③ 倉敷市の公害対策・対応	■倉敷市環境監視センターで、倉敷市職員が解説 倉敷市市条例での救済制度。 ・ 1970（昭和 45）年設置。 市内 23 測定局で測定された大気汚染データは、テレメータ装置により専用電話回線を使用して 1 分毎に環境監視センターに集められ、パソコン処理、表示されている。 ・ 1972（昭和 47）年 倉敷市特定気道疾病医療給付条例（公害病医療救済制度）が倉敷市議会で採決、8／1 施行。 ・ 1973（昭和 48）年 国の公害健康被害補償法 ・ 1975（昭和 50）年 倉敷市水島地域が公害健康補	・ テレメータ装置による 24 時間監視測定は、全国的にみて最先端。 ・ 公害患者をめぐる法律・制度の背景

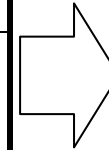
	継続的な監視体制の重要性 ・ テレメータ装置による 24 時間監視測定は、全国的にみて最先端。 ・ 測り続けているからこそわかることがある。光化学オキシダントは近年悪くなっている。 ・ 全国的には観測ポイントが減っている。倉敷市は継続的に観測している。

	償法の適用区域に指定される。	
④市民の健康づくりに、公害経験を生かす	■倉敷市保健所職員 ・ 今後増え続ける、慢性閉塞性呼吸器疾患（COPD）患者の予防と早期発見。 ・ 呼吸器リハビリテーションの普及啓発事業の一環として、肺年齢測定を地域の健康展で開催。医師、みずしま財団と連携。	・ 今も続く患者の苦しみを少しでも楽にするための方法論が開発されている。公害患者だけでなく、呼吸器疾患患者にとって有効な方法。 ・ その開発を、行政・医師・NPO が協働して行っている。最先端の取り組み。

公害病は治らない！ ・ 今も続く患者の苦しみを少しでも楽にするための方法論が開発されている。公害患者だけでなく、呼吸器疾患患者にとって有効な方法。 ・ その開発を、行政・医師・NPO が協働して行っている。最先端の取り組み。

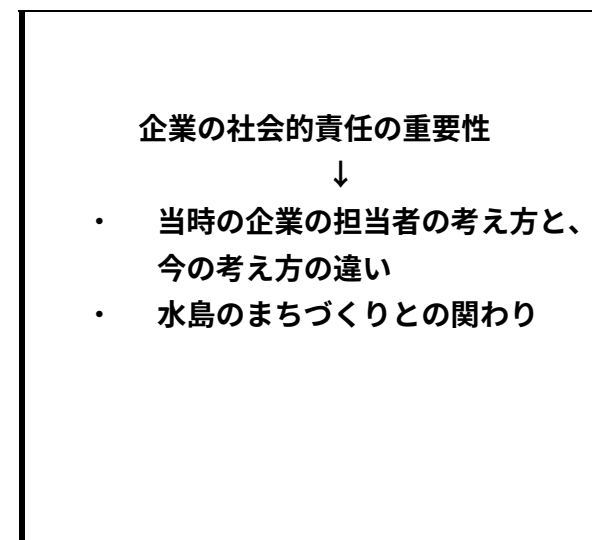
□ 企 業

メニュー	具体的な内容（誰が、どこで、何を伝えるか）	変更前 参加者に受け取ってもらいたいこと
① 世界トップレベルのコンビナート	■ コンビナート企業関係者 - 一般的なコンビナートは、関連産業が集積している立地的側面 - 水島はさらに、企業間の隔たりをなくして、日本有数のコンビナートに成長した（海底トンネルで原料や副産物の共有をする）	- 水島コンビナートの全国的な位置づけ（経済面・企業の視点） - 企業間連携の特殊性
② 工場見学	■ 三菱化学、中国電力、JFE、JX 日鉱日石など企業の担当者が、自社の生産と、環境対策について解説 ■ 内容： - 先端技術での生産 - 排ガス、排水処理の企業努力（公害対策・社会的責任論） - 温暖化防止は省エネルギー効率を高め、貢献している。	企業がどのように公害対策に取り組んできたか？
③ 廃棄物処理	■ 最終処分場（（財）環境保全事業団）、ガス化溶融炉（エコワークス） 産業廃棄物処理のしくみ	コンビナート企業との関係性



変更後 メッセージ
水島の特性 - 水島コンビナートの全国的な位置づけ（経済面・企業の視点） - 企業間連携の特殊性 - 都市計画の不備（生活スペースと工場が余りにも近い、企業優先の道路づくりなど） 企業の視点と住民の視点のギャップ ↓ ◇ 規制で技術力向上 規制があったから技術が向上した。 その規制は行政（国）がつくった。 住民が声をあげて訴えたから、規制ができた。 ◇ 集合高煙突 集合高煙突での公害対策は、汚染物質を広く遠くにとばしただけで効果がなかった。SO₂については総量規制で効果があらわれた。 ◇ 空気レベルの評価

	・ 先進的技術	
④公害・集合高煙突	■場所：みずしま財団研究員が、松江地区で解説 ■内容 工場建設当時は、法規制がなかった公害の発生 1973 年 SO2 の総量規制、廃水処理 集合高煙突は、広く遠くにとばして濃度を下げる効果。事例として 1971 年 10 月 7 日倉敷旧市域の SO2 前年 4 倍に。	・集合高煙突での公害対策は、汚染物質を広く遠くにとばしただけで効果がなかった。 SO2 については総量規制で効果があらわれた。



報告会（打合せ記録 25）		
目 的	事業実施の報告	
日 時	平成 23 年 2 月 21 日（月） 14：00～17：00	
参 加 者	地方事務所 EPOちゅうごく	石川氏 松尾氏、井上氏
	みずしま財団	藤原、白神
◇提供できるメニュー、ツアープログラム、モデル実証ツアーほか発表した。 ◇全体に向けた指摘点 - 最後のまとめは、今回の事業をモデル的に実施したことで、どういう効果があったからどうなるのか、それでどうするのかというところを書く。こうやれば社会問題が解決できるのだというまとめがある。 ◇みずしま財団に向けた指摘 - 視察や研修の際には、受け入れるスタッフ側に学生がいると、交流やディスカッションが盛り上がり、効果的であるという指摘があった。 - 水島の独自性、学ぶべきことが多いということをどうアピールするかが課題という指摘を受けた。 - モデルツアーを実施するとどういう効果があるか、こう実施すれば社会課題を解決できるというまとめがあるとの指摘を受けた。 【問題点と対応】 「おわりに」に加筆することで、対応する。		

第 3 回日中 NGO シンポジウム「環境教育」をめぐって(中国)・北京（打合せ記録 26）		
目 的	シンポジウム参加、事例報告のため （主催：日本国際協力機構 中国事務所、中国国際経済技術交流中心）	
日 時	平成 23 年 2 月 24 日（木）～2 月 25 日（金）	
場 所	中華人民共和国 北京市内	
参 加 者	みずしま財団	白神
◇発表 「コンビナート地域における公害経験を活用した環境学習」と題した報告を通して、水島ツアー・みずしまプロジェクトを伝えた。 ◇中国語版のHP - 中国の NGO の方に、HP やチラシ等の文章表現について、助言いただいた。		

EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 27)		
目 的	報告会の対応、報告書作成について	
日 時	平成 23 年 3 月 1 日 (月) 13 : 00~15 : 30	
場 所	みずしま財団	
参 加 者	EPOちゅうごく	井上
	団体参加者	藤原
◇資料目次の変更 資料 1 市場 留学生データ 資料 2 類似事例 エコツアー 資料 3 提供できるメニュー一覧 資料 4 ツアープログラム 資料 5 HP → (コンセプト、注意点、SEO 対策を後日送付) 資料 6 モデルツアー 仮説を含む概要、ちらし、旅行会社ちらし、アンケート用紙、結果 資料 7 視察参加者アンケート 民医連、岡大、吉備国大 それぞれ用紙と結果 資料 8 顧客調査 企画者アンケート、研究者 (見込み客) アンケート 用紙と結果 資料 9 研究会議事録 構成メンバー、議事録 【問題点と対応】 ※「日帰り観光」「エコツーリズム」などの「着地型ツアー」や「産業観光」とは異なる「過去を顧みて未来をつくる研修」という独自の価値の創造を目指す→「おわりに」に加筆		

HPについてのコンセプト

デザインについて：未来志向が伝わるように明るいイメージ、イラストや手書き風フォントを使用。しかし軽くなならないよう、内容は十分に伝わるように工夫した。

●ロゴコンセプト

地球から伸びた芽 (私たち人間 (の眼 (目))) が、発見し&気付きます。

これによりどんどん緑 (自然) が成長していきます。

●トップページ左側のイラスト

「自然、産業、暮らしが共存しできる未来がきっとできます。」というイメージイラストです。

工場と人が暮らす家がすぐ近くにあるけど、青い空と海があり、澄んだ空で太陽が明るく輝き、お魚も元気に泳いでいます。

私たち人間はきっとこんな暮らしが実現できるはず。みんなで一緒に考えましょう。

構成について：ブログ・ツイッター等との連携を強化した構成。また、将来をみこし、拡張できるように構成にしている。

その他：グーグルアナリティクスでのアクセス解析などの結果もふまえての、検索エンジン対策

趙先生ヒアリング (打合せ記録 28)		
目 的	来年度の計画について、事前ヒアリング	
日 時	平成 23 年 3 月 2 日 (火) 12 : 15～13 : 30	
場 所	倉敷芸術科学大学 趙先生研究室	
参 加 者	倉敷芸術科学大学教授	趙 慧欣氏
	みずしま財団	藤原、白神
◇中国語でのチラシ作成について指導していただいた。 ◇来年度の計画について相談 1) 学生向け 環境講座 (実施体制：地域のNPO・大学・行政・企業等が連携) ・ 目的：地域の公害・環境問題を学んで国内外で自ら伝えることができるようにする。 ・ 内容：地域を知り伝えるための環境講座(座学、工場見学、フィールドワーク、伝えるスキル習得講座(語学、マナー等)等) ・ 対象：岡山県内を中心とした留学生・学生を対象 国外からの視察受入の際に、伝える側で参加し、より理解を深める。 → 倉敷芸術科学大学趙先生、塩飽直紀先生は協力できるとのこと。具体案がきまったら持っていく。		

EPO ちゅうごく指導 (打合せ記録 29)		
目 的	報告会の対応、報告書作成について	
日 時	平成 23 年 3 月 7 日 (月) 13 : 00～15 : 30	
場 所	みずしま財団事務所	
参 加 者	地方事務所	石川氏
	EPOちゅうごく	井上氏
	みずしま財団	藤原
◇資料 ・ 目次をもとに、資料作成状況を確認した。 ・ 新聞記事の転載許可について確認する。 ・ 事業計画「おわりに」に加筆。打合せ記録を資料 10 とし、課題にどう対応したかを記入する。 ◇報告書提出について ・ 事業実施計画書と、事業報告書の内容について、確認を行った。		

リサイクル適性の表示:紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Aランク]のみを用いて作製しています。

平成22年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境NPO・

社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業

**海外からの視察受け入れ力アップ計画（岡山・水島地域）
事業実施計画書**

発行年月 平成23（2011）年3月

発 行 環境省中国四国地方環境事務所

財団法人水島地域環境再生財団

〒712-8034 岡山県倉敷市水島西栄町13-23

電話 086-440-0121 FAX.086-446-4620

電子メール webmaster@mizushima-f.or.jp

URL : <http://www.mizushima-f.or.jp>